

オバマ米大統領のもとに新年にテロが準備されている可能性伝えられる

(スポーツニク 2015年12月31日 18:20)

© AFP 2015/ Brendan Smialowski <http://bit.ly/1NDBmun>

米国のオバマ大統領のもとに、新年の休日にテロが準備されている可能性があるとの情報が伝えられた。CNNテレビが伝えた。

CNNテレビによれば、テロは、ニューヨーク、ロスアンゼルス、ワシントンで起きる可能性がある。

先にCNNは、クリスマスから新年の間に米国の三大都市がテロ攻撃の標的となる可能性があると伝えていたが、治安機関の消息筋は、そうした情報を確認していなかった。

一方、トルコでは、警察が、テロ組織ダーイシュ（IS、イスラム国）の活動に関与していた疑いで、2人の男性を拘束したと発表した。この2人は、新年の休日中に首都アンカラの広場でテロ事件を準備していたという。

<http://bit.ly/1JiTSNd>

ブリュッセル 新年の全ての行事及び花火大会を中止 テロ警戒

(スポーツニク 2015年12月31日 22:37)

© Fotolia/ Artjazz <http://bit.ly/1Rd6Flg>

ベルギーの首都ブリュッセル市当局は、新年の祝賀行事と年越しの花火大会を取り止める決定を下した。30日水曜日、ベルギーのフランス語TV会社RTBFが、マイユール市長の声明を引用して伝えた。TV報道によれば、パリでの同時テロ事件の後、ブリュッセルでは、テロ警戒レベルが4段階中、3の段階に保たれている。

新年行事中止決定に先立ち、TVが伝えたところでは、マイユール市長は30日夕方、脅威分析調整機関の報告書を受け取った。その中では、テロ警戒レベルを現行の3から変えないよう勧告がなされていた。市長は報告を読んだあと、危機対策センターの専門家達の意見を聞き、最後にベルギー連邦政府の立場を知るため、ヤムボン内務大臣と協議した。新年の公共の祝賀行事中止決定は、こうした協議をもとに下された。ただブリュッセル中心部ですでに始まっているクリスマス・バザールだけは、大晦日の夕べも続けられる。

<http://bit.ly/1NWhdTL>

安倍首相とプーチン大統領は 2016 年に極東で会談するか？

(スプートニク 2016 年 01 月 01 日 03:19 アンドレイ・イワノフ)

© Photohost agency <http://bit.ly/1KQsZdw>

東京で 2016 年 2 月、日本の杉山外務審議官とロシアのモルグロフ外務次官が、安倍首相のロシア訪問の時期と場所について協議する。これは 2015 年に予定されていたプーチン大統領の訪日が延期されたにもかかわらず、露日のハイレベル対話が継続されることを意味している。

以下、モスクワ国際関係大学国際問題研究所の上級学術専門家、アンドレイ・イワノフ氏の私見をご紹介します—

安倍首相は、プーチン大統領が年内に日本を公式訪問することを強く望んでいた。なぜプーチン大統領の訪日は実現しなかったのだろうか？その原因は、少なくとも 2 つある。一つは、安倍首相がプーチン大統領の訪日に期待して、露日首脳会談で南クリルの問題について何らかの進展を得る考えであるとあまりにも語りすぎたことだ。なお日本側は、4 島全ての返還、あるいは妥協案として、ロシアが南クリルは合法的に日本に属していると認めることを望んでいる。しかしロシアにとっては 4 島返還も、また南クリルが日本に属していると認めることも受け入れることはできない。すなわち領有権争いにおける突破口に期待するのは無意味であり、この問題に関する協議結果は、ただ双方にとって刺激となるだけだということだ。

2 つ目に、日本の岸田外相は、プーチン大統領の訪日準備のためにモスクワを訪れる代わりに、ウクライナ情勢、クリミア、また極東やクリルにおけるロシア軍の戦闘力の回復に対する批判に「夢中」になった。日本の外相によるこのような行為は、本当に日本はプーチン大統領の訪日を待ち望み、ロシアとの関係改善を願っているのだろうかとの疑いをロシアに抱かせた。しかし、このような政治ゲーム、対ロシア制裁の導入、ルーブルの下落、ロシア人の購買力の低下などにもかかわらず、ロシアと日本の両国では、様々な分野における二国間協力への関心が保たれている。

地政学分野では、中国の力やその影響力が増大し、中国と米国の競争が高まる中、露日の協力が安定化のための要素となるべきだ。中国の台頭はすでに「慰安婦問題」などの複雑な問題で韓国に譲歩する方向へ日本を向かわせた。安倍首相は「慰安婦問題」について最近公式に謝罪し、全ての被害者に日本の予算からかなりの補償金を支払うと約束した。このような行動の目的は、韓国人が日本に対してネガティブな感情を抱く深刻な原因の一つである「慰安婦問題」を取り除き、反日を基盤とした中国との過度の接近を韓国にやめさせることだ。また露中の接近も、日本を喜ばせることはできない。ロシアに中国との関係強化、関係深化の道を模索させているのは、米国をはじめとする欧米が、ロシアに敵対的な態度をとっていることが大きく影響している。また日本による対ロシア制裁は、実際よりも言葉の上での圧力のほうが大きいものの、通常ロシア人の日本に対する感情は非常に肯定的であるのが、最近数ヶ月で目に見えて悪化してしまった。また日本社会でも、日本のメディアが所謂「クリミア併合」や「ロシアの侵略の証拠」などについて報道したことにより、以前もあまり肯定的ではなかったロシア人に対する日本人の感情が、さらに悪化の一途を辿った。これは非常に不愉快なものであり、日本でナショナリズムや軍国主義が高まる中、危険な傾向でも

ある。なおロシアも最近、愛国主義が高まる中、戦闘力が積極的に強化されていることを認める必要がある。

これらの状況の中、露日の首脳が、親しい隣国そして友人であり続けながら今後どのように暮らして行くのかを胸襟を開いて話し合うために会談する必要があるのは明白だ。ロシア大統領の訪日準備は、十分に長い時間を要する可能性があるため、ロシアの極東のどこかでプーチン大統領と安倍首相の非公式会談を実施するというアイデアは、非常に適切なものだ。

<http://bit.ly/1NWhyFY>

プーチン大統領からロシア人に新年のお祝いのメッセージ

(スプートニク 2016年01月01日 06:00)

© AFP 2015/ POOL/ALEXEY DRUZHININ <http://bit.ly/1PAIHyz>

敬愛なるロシア人の皆さん！ 親愛なる友人の皆さん。

数分後に私たちは新たな年2016年を迎えます。過去と未来の狭間のこの奇跡的な瞬間の近づきは、私たちにとって子供の頃から馴染みのあるものです。私たちはこの瞬間を喜びと期待を抱きながら、そして興奮しながら待っています。これは最高の時間、また最も光に満ちた明るい時間です。

私たちは伝統的にこのお祝いを家族や最も近い友人たちと共に祝います。もちろん誰もが新年を家族と一緒に迎えられるわけではありません。病院や工場で働き、職責や軍事任務を果たし、国境を守り、当直し、陸、海、空では我々の安全を保障する必要があります。

私たちは、昼も夜も平日も祝祭日も常に勤務に就いている全ての人たちに感謝しています。今日は特にこの祝日を、国際テロリズムと戦い、意思、決意、不屈さを発揮しながら、遠い外国で我々の国益の擁護につとめている私たちの軍人たちに祝いたいと思います。なおこのような資質は、私たちにとって、至る所で、常に、あらゆる場面で必要です。

国全土の成功は、効果的な労働と我々一人ひとりの成果にかかっています。私たちを団結させているのは、祖国に利益をもたらしたいという欲求、祖国の運命に対する責任という共通の目的です。

去り行く2015年に私たちは大祖国戦争における勝利70周年を祝いました。私たちの歴史、父親や祖父たちの経験、困難な時代における彼らの結束、そして精神力は、我々の偉大な見本となっています。それらは我々が現代の挑戦、脅威にしかるべく対応することを助けてきました。また今後とも助けとなることでしょう。

親愛なる皆さん！ 今、大晦日の夜、私たちは我々の近い人たちがどれほど大切であり、彼らが安泰であること、彼ら全員が健康であること、親が思いやりや気配りを受けて大事にされている

こと、そして彼らが皆さんに教えてくれたこと、また今も教えてくれている全ての善良なものが、彼らの元に返ってくるのが、どれほど重要であるかを特に強く感じています。

私たちの子供たちが、賢く、活動的（な人間）に育ち、愛や思いやり、心の寛容さや慈悲深さが、私たちの日常業務の基盤となりますように。

新年の到来まで残すところ数秒となりました。互いに成功、喜び、幸福を願い合い、理解やサポート、同情や思いやりに対して感謝し合い、そしてロシアの繁栄と平穏無事のためにも乾杯しましょう！

皆さん、おめでとう！ 2016年、明けましておめでとう！

<http://bit.ly/1MKpPIX>

プーチン大統領 元旦から一連の省庁の人員を削減

(スプートニク 2016年01月01日 06:20)

◎ Sputnik/ Mikhail Klementyev <http://bit.ly/1kxjNVB>

プーチン大統領は、一連のロシアの省庁の人員を削減した。これには、大統領府の諸機関も含まれる。しかるべき大統領令は、法律に関する情報を掲載する公式インターネットサイトに公表された。また非常事態省、国防省、連邦軍事技術協力庁、連邦C I S問題機関などの職員も削減された。なお大統領令は、2016年1月1日から効力を発する。

<http://bit.ly/1II62yU>

モスクワの空を美しい花火が彩る

(スプートニク 2016年01月01日 15:33)

◎ Sputnik/ Maksim Blinov <http://bit.ly/22BTNLO>

モスクワ中心部のマネージ広場で新年を祝う花火が打ち上げられ、モスクワの住民や旅行者たちは壮大な光景を見ることができた。 **動画** <http://bit.ly/1TtaMZS>

また赤の広場では大晦日の夜、ロシア・ポップス界のスターたちによるコンサートが開かれた。なお同コンサートは招待客のみによるものだった。

<http://bit.ly/1II6sW0>

ロシア トルコからの野菜及び果物の輸入禁止を導入

(スプートニク 2016年01月01日 15:43)

© Sputnik/ Perventsev <http://bit.ly/lkxjUR2>

ロシアは今日1月1日から、一連のトルコの農産物の輸入禁止措置を導入する。また同時に、ロシアのいくつかの部門でのトルコ企業の活動も禁止となる。

両国政府の閣僚の意見によれば、こうした措置は、ロシア及びトルコ経済に影響を与えるものの、ロシア当局は、他の解決策はないと見ており、ロシア側は、トルコの現指導部と、これ以上対話するつもりはないようだ。

ロシアとトルコの関係は、火曜日シリアでロシアの Su-24 爆撃機がトルコ側により撃墜された事件の後、危機的状況となっている。24日、ロシア機 Su-24 が、シリアで墜落した。ロシアのプーチン大統領は、ロシア機について、シリア上空でトルコの F-16 戦闘機の「空対空」型ミサイルによって撃墜され、トルコとの国境から4キロのシリアで墜落したと発表した。プーチン大統領は、テロリストの共犯者たちによる「裏切り行為だ」と指摘した。ロシア国防省の声明によると、パイロット1人は脱出して降りる最中に地上から攻撃されて死亡、またパイロットの救助作業を行っていたヘリコプター「ミル8」も攻撃され、作業に参加していた海兵隊員1人が死亡した。

<http://bit.ly/1TtaRg8>

北朝鮮の指導者金正恩氏 韓国との関係改善を主張

(スプートニク 2016年01月01日 15:54)

© REUTERS/ KCNA <http://bit.ly/1MLW22V>

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の最高指導者キム・ジョンウン（金正恩）第一書記は、29分に渡る比較的長い新年の挨拶を行い、その中で国民に対し、自主的に南（韓国）と再統一する新たな時代を開き、南北関係改善を促す必要がある事を認めた。なお南北朝鮮間の交渉は、長い中断の後、昨年2015年に再開されている。

なおリアーノーヴォスチ通信の指摘によれば、キム・ジョンウン第一書記は、自分の演説の中で、核兵器に関しては一度も言及しなかった。しかし、その一方で彼は「さまざまな形態の軍事攻撃手段」の製造を訴えた。またキム・ジョンウン第一書記は「米国と南朝鮮（韓国）は、共同軍事演習を止めるべきだ。あれは、我が国に対する戦争のリハーサルである」と指摘した。

<http://bit.ly/22BUDYd>

ウクライナ、デフォルトに

(スプートニク 2016年01月01日 16:09)

© Sputnik/ Vitaliy Belousov <http://bit.ly/10AiB1R>

ロシア財務省は、ロシアに対するウクライナの約30億ドルの債務に関して、ウクライナとの審理手続きを開始したと発表した。

財務相の発表では、次のように述べられている—

「ロシア財務省は、ウクライナが2015年12月31日に期限が切れた特惠期間中に、ロシアが保有する国債とその利子総額30億7,500万ドルを支払わなかったことをお伝えする。そのためウクライナは現在、同国債に関してデフォルト状態にある。」

<http://bit.ly/1UjCOSA>

プーチン大統領 刷新されたロシアの国家安全保障戦略を承認

(スプートニク 2016年01月01日 17:33)

© Sputnik/ Pavel Lisitsyn <http://bit.ly/1MKqZEh>

プーチン大統領は、刷新されたロシアの国家安全保障戦略を承認した。しかるべき大統領令は、1日木曜日、法律情報を掲載している公式サイト上に公表された。戦略は、連邦国家権力機関や地方自治機関、市民社会制度の努力を「ロシア連邦の国益と国の戦略的優先性実現のための、好ましい国内的・対外的諸条件」づくりに向け、結束させることを、その目的としている。なお文書によれば、戦略の基礎は、ロシア連邦の国家的安全保障と国の社会経済発展の相互関係と相互依存の上に置かれている。

<http://bit.ly/10oohtA>

「ダーイシュ (I S) 」ロシア領内で初の攻撃を発表

(スプートニク 2016年01月01日 17:38)

© AFP 2015/ Tauseef MUSTAFA <http://bit.ly/1N1kOCv>

ロシア南部ダゲスタン共和国のデルベントで29日火曜日夜、銃撃があり1人が死亡、11人が負傷した事件で、「ダーイシュ (I S 、イスラム国) 」が犯行声明を表した。監視グループ「サイト (SITE) 」が報じた。

「ダーイシュ」は、次のような声明を表した—

「カリフの兵士たちは、ダゲスタン南部デルベントでロシアの将校たちのグループを攻撃することができた。将校1人が死亡し、残りは負傷した」。「サイト」が報じた。

29日夜、デルベントにあるナルインカラ要塞の展望台を訪れた20人のグループが何者かに銃撃され、1人が死亡、11人が重軽傷を負った。なお死亡したのはロシア保安庁国境局の職員だった。また国境局の上級准尉がマハチカラの病院に搬送された。

<http://bit.ly/1RdaDK0>

米特務機関 オバマ大統領に新年休暇期間中のテロの脅威を警告

(スプートニク 2016年01月01日 18:25)

© AP Photo/ Jose Luis Magana <http://bit.ly/100BTYC>

米国では、クリスマス及び新年休暇の期間中に、ニューヨーク及びロサンゼルス、そしてワシントンの三都市で、テロ事件が起きる可能性がある。これについては、米国の複数の特務機関の指導部が、オバマ大統領のハワイでの休暇入りを前に、大統領に報告した。Foxテレビが伝えた。

米当局の匿名の代表が記者団に伝えた所では「テロが起きる可能性がある」との情報、所謂「たれこみ」に基づいたものだ。安全保障上の観点から見て、最も危険な場所は、Foxテレビの指摘によれば、不特定多数の人々が集まる大規模な屋外イベント会場や交通機関の乗り換えターミナルなどだ。米国の治安機関の代表者は「テロの脅威は、国外からのものだ」と指摘している。

<http://bit.ly/10C50vH>

中国 二隻目の空母建造開始

(スプートニク 2016年01月01日 19:10)

© AP Photo/ Li Tang <http://bit.ly/1MLXTEs>

中国国防省の公式報道官、ヤン（楊）大佐は、ブリーフィングで記者団に「中国当局は、国の長く続く海岸線と広大な管轄海域を守るために、二隻目の空母建造を決めた。空母の建造は、中国北東部の大連で行われる」と伝えた。

プロジェクトによれば、新空母の排水量は5万トンで、国産戦闘機のJ-15などを艦上に搭載する。可変翼をもたない航空機の離陸用には「跳躍台」の利用が考慮されている。ヤン報道官は「空母は、自らの課題遂行に必要な不可欠なあらゆる設備を持つだろう」と指摘し「建造の際には、中国初の空

母『遼寧』稼動3年の経験が生かされる」と確認した。

中国初の、そして唯一の空母は「遼寧」で、2012年までは「ヴァリヤーク」という名前だった。同空母は、1985年に当時のソ連で建造された。そしてソ連邦崩壊後、同空母はウクライナの所有となったが、同国はこれを使用せず、2,500万ドルで中国に売却した。その目的は、公式的には「海上娯楽センターを作る」というものだった。「ヴァリヤーク」は中国に運ばれた後、修理され、名前も「遼寧」に改められた。そして2012年9月25日、中国人民解放軍海軍に加わった。

<http://bit.ly/1R2S0KZ>

ウクライナとEUの自由貿易協定が発効 ロシアとの貿易における特惠を失う

(スプートニク 2016年01月01日 20:25)

© Fotolia/ Sebastian Gelbke <http://bit.ly/1muRiJv>

1日、ウクライナとEUの自由貿易協定が発効した。なおウクライナはロシア側からの貿易における特惠を失う。ウクライナとロシアは、欧州委員会との3者協議の枠内で一年にわたってウクライナの欧州統合によるロシアへのリスク緩和を試みたが、最終的に協議は物別れに終わった。ロシアは自国の市場を保護するために1月1日からCISの枠内におけるウクライナとの自由貿易圏に関する協定を一時的に中止するほか、ウクライナからの輸入に関税を導入し、対露制裁を支持している国として、ウクライナに対する食料品の禁輸措置も導入する。

ウクライナ当局は、ロシアによる食料品禁輸措置による2016年のウクライナの輸出業者の損失がおよそ6億ドルになる恐れがあるにもかかわらず、EUとの自由貿易協定が発効を延期する意向はないとの声明を繰り返し発表した。ウクライナ最高会議は2015年末、ロシアがウクライナとの自由貿易圏に関する協定を一時的に中止し、食料品の禁輸措置を導入することを決定したことを受け、対ロシア経済制裁の発動を内閣に許可した。

<http://bit.ly/22DccH8>

米諜報機関 ロシアの計画に関する報告書を公表

(スプートニク 2016年01月01日 21:19)

◎ 写真: Ministry of defence of the Russian Federation <http://bit.ly/1R5ysWC>

「ロシアは、海軍艦隊の装備替えの枠内で新世代の巡航ミサイル『カリブル』の使用を拡大する計画だ」—米海軍諜報局の報告書の中では、そう述べられている。公表されたデータによれば、「カリブル」クラスの巡航ミサイルは、コルベット艦などあまり大きくない艦船にも装備される計画で、この事は、戦闘力を著しく強めると見られている。ブルームバーグ通信が伝えた。また報告書の中

では「ロシアは対艦ミサイルの改善を続けており、そのスピードや機動性を高めている。この事は、米国及びその同盟諸国の海軍にとって更なる脅威となっている」と述べられている。

さらに米国の諜報機関は、ロシアの潜水艦隊の装備交換に大きな注意を向けている。なお報告書は「敵への威嚇や防護に期待が賭けられている。ロシアによる潜水艦の改良は、潜水艦に弾道ミサイルを装備する事から始まった。万能型の原子力及び非原子力潜水艦の建造は、後回しにされた」と指摘している。ロシアは、昨年7月に新しい軍事海洋ドクトリンを提起した。その中では、大西洋での潜水艦隊の作戦に特別重きが置かれている。

<http://bit.ly/1VvEM8L>

シュピーゲル誌：メルケル首相は新たな年にドイツが分裂することを恐れている

(スプートニク 2016年01月01日 22:27)

© REUTERS/ Fabrizio Bensch <http://bit.ly/1IiU6mN>

ドイツのメルケル首相は新年の演説の中で、市民の分裂を回避するために、人種差別的な気運の影響を受けないよう国民に呼びかけた。ドイツ誌シュピーゲルが伝えた。メルケル首相は、次のように述べた—

「心に冷淡さや、さらには憎悪を抱きながら、ドイツ人であることについて意見を提唱し、その定義から他人を排除しようとする人たちの例にならってはならない。」

メルケル首相は、大量の難民を招き、受け入れるという決定が正しいことを疑ってはならず、難民の欧州社会への統合はドイツにとって利益となる一方であることを信じ、団結することを国民に呼びかけた。メルケル首相は、「移動の成功からドイツは経済的、社会的利益を引き出す」との確信を示した。なお今年初めてドイツ首相の新年の演説がアラビア語と英語の字幕付きで放送された。

<http://bit.ly/10C6K3j>

トルコのエルドアン大統領 ヒトラー・ドイツを手本に

(スプートニク 2016年01月01日 23:32)

© AP Photo/ Stringer <http://bit.ly/1RVVRJZ>

トルコのエルドアン大統領は、ヒトラー・ドイツを手本にトルコを変えたい計画だ。記者団との懇談の中で、エルドアン大統領は「単一国家を維持するさい、大統領統治形態を適用することは可能か？」との質問に対し、自信を持って「可能だ」と答えた。その際、トルコのポータル・サイト t24.com によれば、エルドアン大統領は、ヒトラー統治時代のドイツを、模倣すべき見本と呼んだ。

エルドアン大統領は「トルコ・スタイル」の大統領共和制作りを断固支持している。大統領の考えでは、二重統治がなくなれば、政治的決定を下すより効果的システムの誕生を促すとのことだ。

<http://bit.ly/1YUSuaC>

イラクで爆発 16人が死亡

(スプートニク 2016年01月02日 00:25)

© AFP 2015/ Ahmad Al-Rubaye <http://bit.ly/1RVWuDf>

イラクのラマディで爆発があり16人が死亡した。なお、爆発があった地域や負傷者数については伝えられていない。イラクの一部は、ロシアで活動が禁止されているテロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）」の支配下に置かれている。「ダーイシュ」は、定期的にテロを実行し、主に一般市民が犠牲となっている。最近ラマディをめぐる政府軍とテロ組織との戦いが激しくなった。先にラマディは完全に解放されたと伝えられたが、その後、地元当局は、ラマディの80%のみがテロリストらから解放されたと発表した。

<http://bit.ly/10C7o01>

元旦未明 ウクライナ軍の攻撃でドネツク人民共和国の義勇兵1人死亡

(スプートニク 2016年01月02日 00:30)

© Sputnik/ Dan Levy <http://bit.ly/1PC10eh>

ドネツク人民共和国国防省は、大晦日から新年にかけて、ウクライナ軍側が11回に渡り停戦違反したと伝えた。ウクライナ軍が、迫撃砲、戦車、歩兵戦闘車などを使ってドネツク空港地区、コミンテルノヴォ地区、クイブィシエフスキイ地区を攻撃した結果、人民共和国軍の義勇兵ひとりが死亡、家屋2軒が損傷を受けた。他の被害についての情報は、今のところ国防省には届いていない。

<http://bit.ly/1MLZABP>

プーチン大統領 ロシアを經由するウクライナの物資をコントロールする大統領令に署名

(スプートニク 2016年01月02日 00:35)

© 写真: Leningrad Oblast administration <http://bit.ly/100EzoQ>

プーチン大統領は、「ロシア連邦の経済的安全と国益を保障する措置」に関する大統領令に署名した。この措置は、ウクライナからロシア連邦領内を經由してカザフスタンに物資が送られる際に

講じられる。この大統領令は、2016年元旦から、ウクライナとの自由貿易ゾーンに関する条約の効力が一時停止されることから、署名されたものだ。新たな措置によれば、トラック運転手が会計書類を持ち、貨物室を封印していることを条件に、ベラルーシからの貨物に限って、トランジット輸送が可能になる。

<http://bit.ly/22Ddq5e>

北朝鮮で韓国との主要な交渉担当者突然死

(スポーツニク 2016年01月02日 06:45 タチヤナ・フロニ)

© AP Photo/ Vincent Yu <http://bit.ly/lkzQodq>

29日、朝鮮民主主義人民共和国で、キム・ヤンゴン（金養健）朝鮮労働党統一戦線部長が自動車事故で亡くなった。彼は、対南朝鮮、つまり韓国関係の担当責任者だった。キム・ヤンゴン氏が、対韓国関係において「穏健路線」の代表者で、最高指導者キム・ジョンウン（金正恩）第一書記に対しても一定の影響力を持っていたと見られている。実際彼は、韓国のインチョン（仁川）で開かれたアジア大会を視察した代表団の団長を務めたほか、今年の8月には南北交渉に参加し、国境での銃撃事件のあと高まった両国の緊張のレベルを下げることに成功した。

北朝鮮のハイクラスの官僚が「交通事故で非業の死を遂げる」といった事件は、何も今回が初めてではない。2003年にも、韓国との関係を担当していたキム・ヨンスン（金容淳）労働党対南担当書記が、やはり事故で亡くなっている。彼は、2000年に実現した歴史的な南北最高首脳会談の責任者だった。彼も、キム・ヤンゴン氏同様、前の指導者キム・ジョンイル（金正日）氏に最も近い人物の1人とみなされていた。2013年に処刑された、現指導者キム・ジョンウン（金正恩）第一書記の叔父チャン・ソンテク（張成沢）氏もまた、2006年に交通事故に遭っている。しかしその時は、大事に至らなかった。

こうした事からロシア科学アカデミー経済研究所コリア・プログラムのリーダー、ゲオルギイ・トロラヤ氏は、今回のキム・ヤンゴン氏の突然の交通事故死について「實際上、北朝鮮の政治情勢が発展してゆく中で、陰謀によって生じた出来事」ではないかと見ている—

「もちろん、彼が国の指導者の、何かひどい怒りを買ってしまった、まして以前にもう寵愛を失っていたのだからなおさらだといった推論を強く主張するのは、難しいと思われる。恐らく、自動車事故は仕組まれたものだったという主張も同じだ。そうした説の正しさを、我々は決して証明する事は出来ない。しかし、そうした説が確かなものだと確信を持つことはできる。」

韓国の専門家達は、恐らく北朝鮮は、キム・ヤンゴン氏のような韓国と対話のできる、経験豊かで協力に向けた意志を持つ官僚を、すぐには見つけ出せないだろうと見ているが、トロラヤ氏も同じ意見だ—

「キム・ヤンゴン氏は、韓国との関係に長年にわたり取り組んできた最も権威ある人物である。韓国において彼は、大きな権威を持っており、非常に大きな経験を持ち、南北朝鮮の複雑な相互関係の状況をかなりよく理解している人物とみなされてきた。キム・ヤンゴン氏は、他の北朝鮮の指導者のように強硬ではないように思われた。この事は、南北関係の温暖化プロセスが見られた時には重要となった。温暖化プロセスは、大変複雑かつ病的に、絶えず後退を伴いながら、進んでゆく。しかし韓国のパク・クネ（朴槿恵）大統領が、自分の任期の最後の年を迎える以上、彼女にとって重要なのは、何らかの肯定的な遺産を残す事である。キム・ヤンゴン氏は、対話再開のプロセスでも、かなり重要な役割を果たした。今のところ、誰が彼の後任になるか明らかではないが、そもそも北朝鮮に、特別に韓国との関係に取り組めるようなリーダーがいるのかどうか、はっきりしていない。それゆえキム・ヤンゴン氏のポストに誰が任命されるのか、それによつて彼の死が、偶然によるものであったのかどうかは、今後判断されることになるだろう。」

観測筋はすでに、北朝鮮のマスメディアに、11月の初めに「姿を消した」かつての北朝鮮のNo.2、チェ・リョンヘ（崔竜海）氏の名が再び登場している事を指摘している。キム・ヤンゴン書記事故死に関連して作られた葬儀委員会のリストにも、彼の名前が記されている。そうした事から、まさに彼こそが、キム・ヤンゴン氏の潜在的後任候補だという声もある。他の後任候補としては、キム・ヤンゴン氏の次官だったヴォン・トヨン氏、キム・ヴァンス氏、メン・キョンイル氏、さらには祖国平和統一委員会書記局の副責任者チョン・チョンス氏などの名前が挙がっている。しかしいずれにしても、そうした人々は、韓国ではあまり知られていない。そうした事から、韓国との主要な交渉役には、南との作業経験のあまりない他のもっと有力な官僚が、そのポストに据えられる可能性もある。

<http://bit.ly/1P718e6>

自分の将来を選択したロシア

（スプートニク 2016年01月02日 08:00 アンドレイ・イワノフ）

◦ Sputnik/ Alexei Danichev <http://bit.ly/1muTTTx>

2015年は、大多数のロシア人にとって悟りの年、そして恐怖を克服した年となった。また昨年、ロシアがどの方向に進む必要があるのかを定めることも可能とした。以下、モスクワ国際関係大学国際問題研究所の上級学術専門家、アンドレイ・イワノフ氏の私見をご紹介しますー

これは欧米のお陰だ。彼らに感謝する必要がある。米国は12月末、ロシアに対して追加制裁を導入した。制裁対象となったロシア企業は驚くべきものだった。なぜなら制裁対象リストには、例えばクリミアにある「ヤルタ映画スタジオ」や世界に名を馳せるワイン工場「マッサンドラ」などが含まれていたからだ。また制裁が強化された理由も衝撃的だった。米国はウクライナ情勢解決に関するミンスク合意を遵守していないとしてロシアを非難したのだ。しかしロシアはドイツやフランスと同じように協議の参加者にすぎず、ミンスク合意を遵守していないのはウクライナなのだ。ウ

クライナはドンバスの国境に軍を集結させ、ドネツクの町への砲撃を続け、ドネツクおよびルガンスクとの対話や、米国までもがウクライナに呼びかけている連邦制に関する現実的な行動を拒否している。

米国とロシアは、シリアについても意見が異なっている。米国はテロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）」に対抗する欧米の有志連合にロシアを招きながらも、シリアの平和の鍵はアサド大統領の退陣であると主張し続けている。また米国は、シリアでロシアのパイロットたちが行っているテロリストらの拠点に対する空爆について、「交渉に害を与えている」と発表している。要するにこれは、オバマ大統領がロシアとの和解を望んでいないということだ。なぜならオバマ大統領にとっては、ロシアが独立性を示さなくなり、米国のために素直に従った民主主義者や自由主義者たちの努力によって陥った1990年代の状態にまでロシアが退廃することが望ましいからだ。2014年から2015年に欧米が導入した制裁も、ロシアをこの方向に追いやるためのものだった。服従や退廃へ向かわせるものだった。当初このような制裁はロシアのエリートたちを驚かせた。しかし後に制裁が機能していないことが分かった。なぜならロシア経済の生命力は予想されたよりもはるかに強かったからだ。ロシアの農家経営者や酪農家たちは不意にロシア市場へのアクセスを獲得した。軍産複合体企業も新たな注文を受けた。食品産業や軽工業の発展にも新たな弾みが与えられた。

しかし最も重要なことは、政治および社会分野で起こった。対ロシア制裁の発動を提案した者たちは、ロシア社会の分裂や反プーチン暴動が起こることに期待したが、それとは反対のことが起こり、ロシア人たちが団結したのだ。プーチン大統領の外交政策は、ロシアで顕著な影響力を持つ共産主義者や自由主義者、民主主義者たちによって支持された。しかし1990年代に欧米との接近を支持した人々は、ロシアの価値やアイデンティティーを喪失させ、国民からの支持も完全に失った。

さらに、「ロシアの声」という人気のオーディション番組の結果も、ロシア人の意識が変化した予想外の証拠となった。今年の優勝者には、プロの歌手ではなく、聖職者のフォチイ修道司祭が選ばれたのだ。司祭は、ロシア歌曲とイタリア・オペラのアリアを歌い、その素晴らしい声だけでなく、その心、魂でもテレビ視聴者たちを魅了したのだ。同オーディションでは、欧米のヒット曲を歌った出演者が大勢いたが、その多くの人たちには、まさにこの「心」が足りなかったのだ。

ロシアのブログ圏は、このテレビオーディションの結果について次のような賢明な指摘をした—

「ロシア人はフォチイ修道司祭に対してだけでなく、ロシアが自分であり続けるために、ロシアが進むべき方向の選択に対しても投票した。もしこれを気に入らない人がいたとしても、受け入れる必要がある。ロシア人の攻撃性について論じることが好きな人たちには、フォチイ修道司祭が歌うこの曲を聴くことをお勧めする。」

動画 <http://bit.ly/100G1GK>

<http://bit.ly/1SrMilc>

オーストリア女性 殺害前にダーイシュの「性奴隷」に

(スプートニク 2016年01月02日 09:11)

© Fotolia/ Jasmin Merdan <http://bit.ly/1XFSuqP>

外国のマスメディアが、テロ組織ダーイシュ（IS、イスラム国）の戦闘員に合流しようとしてシリアに入った未成年のオーストリア女性2人の「その後」について新たな詳細を報じている。

ボスニア出身でオーストリア国籍を持つサムラさん（17）とサビナさん（15）は、家族に「私たちを探さないで、私たちはアラーに奉仕し、命を捧げます」との書置きを残し、行方をくらました。

その後、明らかになったところでは、2人はトルコ経由で、シリア領内の所謂ダーイシュの首都ラッカに入り、戦闘員と結婚した。

最初、二人はイスラム過激派の庇護の下での生活を気に入っていたようだった。彼女達は、カラシニコフ銃を持ち、顔を隠したイスラムの衣装を着けた写真をネット上にアップしたりしていた。

しかしまもなく、二人についての情報が、全くなくなってしまった。その後ジャーナリスト達は、彼女達が自分の過ちに気づき、シリアから逃れるために親族と連絡を取ろうとしていたとの事実を突き止めた。

しかし二人の逃亡プランは、実現できなかった。新聞「ミラー」に寄れば、二人のうち少なくとも一人は、戦闘員らの「性奴隷」にされてしまったという。

サムラさんと同じ家で生活していたチュニジア人の女性の証言によれば、サムラさんの夫は、テロリストで、自分の妻が他の戦闘員と性的関係を持つことに反対ではなかった。ダーイッシュ社会では、女性には「イスラム聖戦士」への奉仕を拒否する権利はなかった。例えば、魅力的な外見からマスコミに「ダーイッシュのセックスシンボル」と呼ばれた17歳の女性は、戦闘員すべての「性奴隷」となった。チュニジア女性の話によれば、ダーイシュの新しいメンバーとなった男達はすべて、サムラさんと「性的な儀式」を経験し、正式な戦闘員になったとの事だ。

サムラさんは、何度か脱走を企てたが、そのたびに戦闘員らは、彼女を金槌で強く殴り、ついに頭に大怪我をさせ、それが元で彼女は亡くなった。

もう一人の女性、サビナさんの運命だが、こちらも悲劇的なものだった。ダーイッシュの現実に幻滅した彼女は、父に手紙を書き、毎日自分が体験している恐怖を訴えた。その後、彼女とその夫は、ラッカ近郊の戦いで死亡している。

<http://bit.ly/1P7mUMa>

米国 40年ぶり原油解禁後 初出荷

(スプートニク 2016年01月02日 16:58)

© AFP 2015/ Christophe Simon <http://bit.ly/22Ey5WF>

米国は、原油の輸出を40年ぶりに解禁した後、初めての出荷を行った。通信社ブルームバーグが報じた。12月31日、コノコフィリップス社のタンカーが、テキサス州コーパスクリスティの港からイタリアに向かって出発した。タンカーに積まれている原油は、スイス・オランダに拠点を置く石油トレーダー「ヴィトル」向けのもの。

ブルームバーグによると、コノコフィリップス社は近いうちにも「ヴィトル」向けに少なくともさらにもう1台のタンカーを出発させるという。米国で原油の解禁を求めたのは共和党と同国の石油会社。オバマ政権は、代替エネルギーを開発する必要性を主張し、反対した。

<http://bit.ly/1mXjZ20>

インド 武装集団が空軍基地を襲撃

(スプートニク 2016年01月02日 16:31)

© AFP 2015/ DIPTENDU DUTTA <http://bit.ly/1mwPsrA>

パキスタンとの国境に近いインド北部にある空軍基地が武装集団に襲撃された。「ザ・インディアンエクスプレス」が報じた。 twitter.com <http://bit.ly/10rQlwr>

伝えられたところによると、銃撃戦の結果、戦闘員4人と軍人1人が死亡したほか、数人の兵士が負傷した。現在のところ、武装集団の襲撃目的は明らかにされていない。ロイター通信は、2015年に起こった襲撃事件と似ていると報じている。同事件では9人が死亡し、インドは犯人について、パキスタンから来たと発表した。インドのモディ首相は12月下旬、突如パキスタンを訪問した。インドの首相がパキスタンを訪れたのは約12年ぶりだった。

twitter.com <http://bit.ly/1R46EBB>

<http://bit.ly/1Rh07Ag>

フランスで大晦日から新年にかけての深夜 804台の自動車燃やされる

(スプートニク 2016年01月02日 16:43)

© AP Photo/ Michael Probst <http://bit.ly/1YXSoYV>

フランス警察は大晦日から新年にかけての深夜、前年の2倍超となる622人を拘束した。1日、

フランスのカズヌーヴ内相が発表した。

twitter.com <http://bit.ly/102vVWU>

内相によると、拘束された 622 人のうち、368 人が拘留された。内相は、「この結果は、治安部隊の活動が非常に有効であることを物語っている」と述べた。AFP通信が報じた。

またカズヌーヴ内相は、フランス国内で大晦日から新年にかけての深夜に 804 台の自動車が燃やされたと伝えた。AFP通信によると、2014 年 12 月 31 日から 2015 年 1 月 1 日にかけての深夜、フランスでは 940 台の自動車が燃やされたため、前年よりも 14.5%少なくなったという。

フランスは 2015 年 11 月 13 日にパリで起こった連続テロを受け、年末年始の安全対策を強化した。

<http://bit.ly/1P8MSyT>

EU ウクライナのヤヌコヴィチ前大統領への制裁措置を今春にも解く模様

(スプートニク 2016 年 01 月 02 日 19:44)

◦ Sputnik/ Ilya Pitalev <http://bit.ly/1StfWGW>

EUは、今年春にも、ウクライナ前政権の一連の官僚達に課していた制裁措置を解除する可能性がある。新聞「The Wall Street Journal」が伝えた。同新聞は、誰に対する制裁が解かれるのか、具体的な情報は伝えていないが、消息筋の話では「2016 年中に、すべての人達が、欧米で自分の資産に自由にアクセスできるようになる」と述べ「制裁が解除された後も、欧州の政治家のうちで誰も、制裁支援には戻らないだろう」と指摘した。

EUは、ウクライナ検察の要請を受け、2014 年 3 月、国の所有物を不法に奪い取った疑いがあるとしてウクライナ前政権の主要メンバー 18 人の資産を 1 年間凍結した。そして 2015 年、この制裁措置がさらに延長された。

<http://bit.ly/1PEwIQP>

サウジアラビア テロに関与した 47 人を処刑

(スプートニク 2016 年 01 月 02 日 21:07)

◦ Flickr/ Steve Evans <http://bit.ly/22fxCKh>

サウジアラビア内務省は、テロに関与した 47 人の死刑を執行した。中東の衛星テレビ「アルアラビヤ」が報じた。内務省の発表によると、処刑者の中には、テロ組織「アルカイダ」のサウジアラ

ビア支部のリーダー、ザハラニ師や、シーア派指導者のニムル師が含まれていたという。両者は2014年に死刑を言い渡された。処刑された者の多くは、2003年から2006年にサウジアラビアで「アルカイダ」が実行した攻撃に関与していた。ロイター通信によると、イランは先にシーア派指導者ニムル師の処刑は、「サウジアラビアにとって高くつくだろう」との声明を表していた。

<http://bit.ly/1YXT6wi>

米元外交官「我々はまるで殺人民族、国内でも外国でも」

(スプートニク 2016年01月02日 23:01)

© Flickr/ Glenn Pope <http://bit.ly/1Hc6Ueg>

米国の元外交官で、一連の国々の大使を務めた経験を持つダン・シンプソン氏は「米国が、武器取引を続け、戦争を引き起こしている間は、地上に平和は訪れない」と語った。新聞「Pittsburgh Post-Gazette」は、「地球の平和？ 米国が武器取引を止め、戦争を始めている間は無理」というタイトルのシンプソン元大使の記事を掲載した。

記事の内容を抜粋して、以下お伝えするー

「2015年末の段階で、米国について述べるならば、次のような結論に達する。それは『我々は、まるで殺人民族だ。自分達の家の中でも。外国でも人を殺している』というものだ。

国内で、米政府は、規制することもなく武器を売らせ、その事は、教会や学校も含め、あらゆる場所での殺人行為を引き起こしている。一方国外で、米国人は、殺し屋とみなされている。

他の国々は、米国が自分達に己の意思を押し付けまい、自分の神、あるいは神々に祈るしかない。彼らは、米国が、己の目から見て相応しい統治形態を、自分達の元で確立しようとしまい、また爆弾を投下したり、指導者を殺害するために無人機を飛ばしたりするための口実として何らかの自分達の違反行為を利用したりしないよう、ただ祈るしかない。

イラクやアフガニスタンからリビアまで、米国により破壊され、イエメンは米国の援助のもとサウジアラビアが破壊している。外国人の大部分は、米国は、世界共同体に脅威をもたらす狂人のように思っている。

米国の所謂『同盟国』のいくつかは、殺人をよしとする我々の傾向をいくらか抑えようとするだけだ。例えば、英国がそうだ。

米国が、自分達の武器の巨大市場にしたいと欲しているインドが、米国とでなくロシアと関係を持つことをよしとするのも偶然ではない。

米国は、自分達の軍部隊を祖国に戻さなくてはならない。我々が、それをしないうちは、この地上に平和はない。さあ米国よ、人殺しを止めようではないか！」

<http://bit.ly/1ZH72rc>

メルケル首相と連立を組む政党 イスラム主義者たちへの電子ブレスレットの装着義務付けを提案 (スポーツニク 2016年01月03日 00:50)

◎ AP Photo/ Panu Pohjola <http://bit.ly/1JmzOJD>

ドイツのメルケル首相が率いる政党と連立を組む「キリスト教社会同盟」は、有罪判決を受けたイスラム主義者たちに電子ブレスレットの装着と国籍の剥奪を義務付けることを提案している。リアーノーヴォスチ通信が伝えたところによると、来週の党大会で、「効果的なテロ対策」と名付けられた文書案について話し合われる。

<http://bit.ly/1RhRwzi>

イラクでの軍事作戦に参加した英国軍人 戦争犯罪で裁かれる可能性 (スポーツニク 2016年01月03日 01:57)

◎ AP Photo/ Dan Chung <http://bit.ly/1Un0bhp>

英国の特別捜査委員会のマーク・ワーウィック委員長は「イラクでの軍事作戦に参加した一連の英国軍人らが、戦争犯罪で訴追される可能性がある」と伝えた。新聞 The Guardian によれば、ワーウィック委員長は「すでに本質的な証拠のそろった数件の事例がある。公判前の審議には、12 から18ヶ月かかるだろう」と述べた。なお英国軍は、イラクでの自分達の作戦を2009年に終了している。

<http://bit.ly/1TwTpak>

イラン 5年ぶりにEUから石油代金受け取る (スポーツニク 2016年01月03日 02:15)

◎ Fotolia/ Edelweiss <http://bit.ly/1NY5K8m>

欧州諸国にイランの石油化学製品購入を禁じていた制裁が、その効力を失ったことで、イランの石油化学企業は、5年ぶりに、EU内で登録された銀行を通じて、自分達の製品に対する代金を受け取った。イランのイルナ通信が伝えた。

石油化学製品を扱う貿易会社のメフディ・シャリフ・ニクナフス社長は、取材に応じ「私たちの会社の口座に、初めての支払い分が、スペインの銀行から振り込まれた。代金が届いたことは、ここ5年続いた制裁の終わりを意味する」と述べた。

先の報道では、イランは、2016年から2017年度の予算を、1バレル40ドル計算で準備した。イラン石油の輸入禁止措置は、イランが核兵器を開発しているとの疑いから導入された対イラン制裁の一環として講じられた。

<http://bit.ly/1kBvrPd>

ブラジルからウクライナに帰化したサッカー選手 ウクライナ軍から招集がかかる

(スプートニク 2016年01月03日 04:49)

© Sputnik/ Evgeny Kotenko <http://bit.ly/1mrD2Sn>

ブラジルからウクライナに帰化したウクライナのサッカークラブ「ドニエプル」のMFエドマール選手が、ウクライナ軍から招集を受けたことを明らかにした。

エドマール選手は、次のように語った—

「複数の男性が軍に招集され始めた時、私はシーズン開幕前の合宿に参加していました。召集の通達は私の自宅に届き、妻が受け取りました。彼女はすぐに私に電話をしてくれました。妻は心配していました。私は最初ショックを受けました。なぜなら、こんなことはありえないと思ったからです。その後、私はクラブを通じてこの問題をわりとすぐに解決しました。私は軍服を着て歩くことはできないと説明しました。なぜなら、軍人は何をすべきなのかさえも知らなかったからです。私は武器を手にしたことは一度もありませんでした。ブラジルでは兵役が延期されたからです。私がウクライナ国籍を取得したのは、この国に近づくためでした。私の目的は、ウクライナ代表に招集されることではありませんでした。私とウクライナの関係は素晴らしいものです。しかし私は、自分の家があるブラジルとの関係も失いたくはありません。」

<http://bit.ly/1R48h2p>

2015年サイバー空間での可能性を拡大した中国

(スプートニク 2016年01月03日 09:04)

© AFP 2015/ THOMAS SAMSON <http://bit.ly/10v9dff>

昨年2015年、中国は、軍事目的でサイバー空間を利用する可能性を拡大したが、このことは、米中関係における重要な矛盾点の一つとなった。現在中国は、最も強力で大きな計算力を持つスーパ

ーコンピューターを持っている。一方米国には、より進んだ技術とより経験豊かな専門家がいる。米国が中国に対し非常に多くの批判を浴びせた後、米中は、中間的な妥協に達し、サイバー安全保障に関する合意を結んだ。しかしこの合意は、サイバー空間における米中間の基本的矛盾を解決するものではない。そうした矛盾は、今年 2016 年、顕在化する恐れがある。

米国の側から中国に対しての一方的非難は、もちろん、公正なものではない。米国の諜報機関の元職員スノーデン氏が秘密を白日の下にさらした後、我々は、米国が、少なくとも、サイバースパイ活動において中国に比べて勝るとも劣らぬほど、積極的に又成功裏に活動していたことを、はっきりと知っている。それどころか、単に米国には今のところ、より大きな経験とハイクラスのコンピューター専門家がいることから、より大規模にサイバースパイ活動を展開していたとすることができる。

すでに米国は、自分達がサイバースパイ活動をしているという事実を、もはや否定していない。彼らの論拠は、米国はサイバー空間において、軍事的及び政治的な情報を得るために「日常的に」諜報活動を行っている、というものだ。一方中国の専門機関は、得た情報を自国の企業に伝え、それによって、中国企業は利益を得、米国の企業は損失を蒙っている、との主張がなされている。

こうした論拠は、説得力が弱い。第一に、スパイの形態を「許されるもの」と「許されないもの」とに分類するような、はっきりした、いかなる国際的な規範もない。そうしたルールが存在するとしたら、諜報活動の基本的原則に矛盾してしまう。第二に、もし米国がたとえ、入手した情報を企業に直接伝えなくても、企業は、スパイ活動の支援のもと、自分達の会社の立場を強化できる状態に完全にある。

諜報機関の力は、重要な貿易交渉の際、幅広く利用されており、その事は、明白に米国に本質的優越性を与えてきた。まして、サイバースパイに取り組む国の諜報機関と、その機関の元職員らがそろい競争を専門とする民間企業の間には、境界線を引くのは極めて難しい。前の職場との連絡を保っている元諜報員を基盤にした会社というのは、どの国にもある。そこには、公的に決められた、いかなる制限などない。

今日に至るまで、新しい環境に移った超大国同士の対立が収まった例はないが、今もまたそれが起きないとは言えない。中国と米国は、現在、サイバー空間において、ほぼ対等なレベルで競争できる、唯一の国だ。

昨年 2015 年、サイバー空間での米中の対立緩和において、若干の前進があった。米中間の矛盾が、絶えず増大してゆく以上、今年 2016 年、両国が、まさに自分達の断固たる意向を示すため、相手の情報空間に対し、示威行動をとる可能性も排除できないのではないか、年頭に当たり、そうした懸念が頭をよぎる。

<http://bit.ly/1Stiox2>

国連事務総長 サウジアラビアでのシーア派指導者ら 47 人処刑を憂慮

(スプートニク 2016 年 01 月 03 日 16:06)

© Sputnik/ Iliya Pitalev <http://bit.ly/1mtYfuI>

国連の潘基文事務総長は、サウジアラビアで、イスラム教シーア派の著名な聖職者ニムル師を含め、47 人が処刑された事に、深い憂慮の念を表明した。また潘基文事務総長は、この処刑に対し自制と平静を保つよう求め、宗教指導者達に、宗派間の緊張が先鋭化するのを回避する努力を続けるよう要請した。事務総長はさらに、イランの首都テヘランのサウジアラビア大使館に対するデモ隊の行為に関し、遺憾の念を明らかにした。

2 日、サウジアラビア内務省は、テロリズムと扇動行為の罪で 47 人の処刑を発表した。処刑された人達の中には、サウジアラビアにおける「アルカイダ」グループのリーダーの 1 人、ファリス・アズ-ザフраниの他、昨年死刑判決を受けた著名なシーア派聖職者ニムル師が含まれ、イスラム社会に大きなショックを与えている。

<http://bit.ly/22GqoPN>

イラン人デモ隊 テヘランのサウジ大使館を襲撃

(スプートニク 2016 年 01 月 03 日 18:51)

© AFP 2015/ Mohammed Huwais <http://bit.ly/1Jo9VJC>

イランの首都テヘランのサウジアラビア大使館の施設の一部が、サウジでの著名なイスラム教シーア派聖職者ニムル師処刑に抗議するデモ隊の攻撃により、破壊された。

TV アル-アラビアの報道では、攻撃に参加したデモ隊の一部は、サウジ大使館内の敷地内に侵入し、建物に放火しようとしたが、警察隊により排除された。また、イラン北東部の町メシヘドにあるサウジアラビア領事館の一部が、抗議行動参加者らによる放火で焼失した。

こうした騒乱事件は、サウジアラビアで、著名なイスラム教シーア派の聖職者ニムル師ら、47 人が処刑された事に強く抗議した人々により引き起こされた。サウジアラビア当局は、47 人に対し、テロリズムに関与し、それを扇動したとして有罪判決を下していた。一方イラン当局は、サウジの行動は非人間的だと非難し、人権を無視するものだと強く批判している。なおサウジアラビア外務省は、今回のテヘランでの騒乱事件を重く見、首都リヤド駐在のイラン大使を呼び、抗議書を手渡した。

<http://bit.ly/1RYGQqL>

北朝鮮 水爆実験に向け準備か？

(スプートニク 2016年01月03日 17:16)

© AP Photo/ Lee Jin-man <http://bit.ly/1LbZGIV>

「北朝鮮は、プンゲリ核実験場で水爆など熱核兵器製造に向けた準備作業を行っている模様だ」— ヨンハップ通信が、韓国国防省の報告書を引用して伝えた。韓国の化学・生物学・放射線兵器国防司令部が作成した報告書の中では、次のように述べられている—

「すでに北朝鮮当局は、恐らく、ハイテク核兵器製造のため必要不可欠なトリウム（放射性同位体）を生産している。北朝鮮の核テクノロジー研究、地下核実験や砲弾実験の歴史、さらには核開発開始からこれまでに経過した年月を考慮するならば、北朝鮮には、水爆など熱核兵器製造のための基礎が存在する。」

<http://bit.ly/1TyTTNd>

トランプ氏、「ダーイシュ（IS）」の真の創設者の名を明らかに

(スプートニク 2016年01月03日 19:33)

© REUTERS/ Ben Brewer <http://bit.ly/1NZBp76>

米大統領選挙に共和党から立候補しているドナルド・トランプ氏は、国際テロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）」を作った張本人はヒラリー・クリントン氏とバラク・オバマ氏だと暴露した。

AP通信はトランプ氏がミシシッピで支持者を前に演説しているビデオをYouTube上の自社チャンネルにアップした。そこではトランプ氏はシーア派の指導者のニムル師の処刑に激怒したイラン市民がテヘランのサウジアラビア大使館を襲撃した事件についてエネルギーに語り、「ヒラリー・クリントンがIS（ロシアで活動が禁止されているテロ組織「ダーイシュ」）をオバマと一緒に作ったんだ」と豪語している。

元米国務長官だったクリントン氏は米大統領選挙での民主党から有力候補と目されており、トランプ氏とは常に互いを攻撃しあっている。特にトランプ氏がイスラム教徒の米国への入国を禁止する希望を表した直後、クリントン氏はトランプ氏を「ISの最良のリクルート人」と揶揄。クリントン氏のこの非難は、トランプ氏の演説の一部をアルカイダと関係する組織のテロリストらが自分のプロパガンダビデオに使用したことを受けて行われたもの。

<http://bit.ly/10EeDip>

ギリシャ、キャンプ収容の違法移民らが暴動

(スポーツニク 2016年01月03日 19:25)

© REUTERS/ Yannis Behrakis <http://bit.ly/1RYHLHR>

ギリシャの湾岸都市コリントスで市の中心部に一時的に収容されている違法移民らの小グループが国外追放に抗議し、暴動を起こした。アテネニュース通信社が報じた。2日夜、コリントスにある古い歩兵隊キャンプに収容されている移民の30人ほどが、ギリシャ側が名づけた難民収容施設「ホスピタル・センター」の内容および国外追放の可能性に抗議を表した。

移民らは警備員に投石し、建物を破壊し、マットレスに放火したものの、警備員らは迅速に事態に対応したため、物的損害にとどまり、人的損害は出なかった。アテネニュース通信社が報じた。国連難民高等弁務官事務所の調べでは地中海を渡って欧州にたどり着いた難民、移民の数は2015年100万人を越えた。移民の波は主にギリシャに流れ込んでおり、その数は84万4千人に及んでいる。

<http://bit.ly/1myVho8>

ロシア、在タジキスタン露軍基地の戦闘準備体制をアップ

(スポーツニク 2016年01月03日 20:07)

© Sputnik/ Igor Zarembo <http://bit.ly/1ILCKzF>

ロシア外務省C I S 諸国第3課のアレクサンドル・ステルニク課長は集団安全保障条約ではタジキスタンとアフガニスタンの国境線を強化する複合的措置を構築されていることを明らかにした。「こうした措置は12月21日のモスクワでの集団安全保障条約の集団安全保障評議会の会議で検討された。状況がこれを必要とする場合、ロシア、タジキスタンの集団安全保障軍を用いる可能性がある。」ステルニク課長はインターファックス通信からのインタビューのこう答えた。

「しかもこの目的でタジキスタンにおける第201ロシア軍基地の構造および配備スキームが最適化され、その戦闘準備体制が高められる。国境警備の状況を考慮した現段階では、これは最も効果の高い協力のモデルだ。」

ステルニク課長は、ロシアはタジキスタンのアフガニスタンとの国境を「ダーイシュ（IS、イスラム国）」から守る目的でタジキスタンに十分な数の軍事要員を配置する計画にはないものの、必要となれば、ロシアおよびタジキスタンの集団安全保障条約軍を配置する可能性は除外されていないと語った。

<http://bit.ly/1ZJCxAY>

ニムル師の処刑は中東の安定を揺るがす

(スプートニク 2016年01月03日 21:53)

© AP Photo <http://bit.ly/10EgmnW>

イランの首都テヘランのサウジアラビア大使館には、一度に何十もの火炎瓶が投げ込まれ大騒ぎとなったが、北東部の主要都市マシュハド（メシヘド）のサウジアラビア領事館でも、同様の出来事が起き、すでに建物の一部が焼失した。何百人もの人々が街頭で暴れ、通りにはきな臭いにおいが漂っている。イランでは初め、何千もの群衆が街頭に出て、処刑されたイスラム教シーア派の著名な聖職者ニムル師の肖像画を掲げながら、サウジ当局の行動に抗議していたが、その後、サウジアラビア関連施設への襲撃が始まった。<http://bit.ly/1Z10pTW>

とりあえずイランの治安機関は、状況をコントロール下に収める事に成功したが、それは容易な事ではなかった。警察隊は、群衆に対し、催涙ガスを使用し、大使館敷地内に侵入した暴徒らを、30分かけてようやく排除した。

中東全土でも、いくつか同様の事が起きており、シーア派信徒達の自然発生的な抗議行動は、イラクからイエメンまで広がった。その波は、サウジアラビア本国にもついに及び、ニムル師の故郷カティフに、サウジ当局は、軍・治安機関の部隊や装甲自動車などを派遣している。さらに抗議行動の波は、欧州にもおよび、ロンドンでも抗議デモが行われた。

写真 <http://bit.ly/1JStrZA>

EUのモグリーニ外交・安全保障担当上級代表は「ニムル師の処刑は、危険な火種になる恐れがある。中東にすでに大きな破壊をもたらしたスンニ派とシーア派間の緊張関係が、さらに深まるかもしれない」と不安感を表した。

ニムル師に、死刑判決が下されたのは、3年前の事だった。ニムル師は、サウジにおける宗教的少数派であるシーア派信徒の権利擁護者であり、平等を求め憲法改革を求めてきた。しかしスンニ派が主導するサウジ政府は、彼に反体制派のレッテルを張り、テロ組織に関与していると非難した。刑は、2日に執行された。ニムル師以外にも、46人が処刑されている。

<http://bit.ly/1R6g7IA>

イラン警察 サウジ大使館襲撃事件後 40人拘束

(スプートニク 2016年01月03日 21:39)

© REUTERS/ Hamad I Mohammed <http://bit.ly/1Ra0G2y>

イラン警察は、首都テヘランのサウジアラビア大使館襲撃事件の調査を続けているが、これまで

40人を拘束した。

2日夕方、サウジアラビアでイスラム教シーア派の聖職者が処刑された事に抗議した群衆が、火炎瓶などを使って首都テヘランにあるサウジアラビア大使館を襲撃した。なお騒ぎは、警察隊が催涙ガスなどを使い、鎮静化させた。

AFP通信が、地元当局者の話として伝えたところでは「大使館襲撃の容疑で40人が逮捕された」との事だ。

<http://bit.ly/1MOKk7o>

インド空軍基地で爆発、銃撃戦が続行

(スプートニク 2016年01月03日 23:10)

◎ REUTERS/ Mukesh Gupta <http://bit.ly/1kE6Yc7>

インドでは武装戦闘員の集団が空軍基地を攻撃した。2日朝、軍服を着たテロリストらはカラシニコフ銃のAK47から発砲。マスコミ報道では武装戦闘員らに対し、インド国家安全保障親衛隊の50人の兵士が応戦した。この襲撃の結果、武装戦闘員4名が殲滅、兵士7人が戦死した。

3日付けのヒンドゥスタン・タイムズ紙が治安維持機関の代表の声明を引用して報じたところによれば、空軍基地では新たな発砲の応戦が生じており、まだ2人のテロリストらが残っている。リアノーヴォスチ通信の報道では、3日朝、基地周辺では爆発音が上がり、兵士1人が負傷した。

<http://bit.ly/1MOKrzK>

イランの最高指導者が約束、シーア派指導者処刑に聖なる報復が続く

(スプートニク 2016年01月04日 01:07)

◎ AP Photo/ Office of the Iranian Supreme Leader <http://bit.ly/1XCAXhq>

イランの最高指導者、アーヤトッラーのアリ・ハメネイ氏はシーア派の宗教的指導者を処刑した後、サウジアラビアの政治家らを待っているのは聖なる報復だという声明を表した。3日、プレステVが報じた。

ハメネイ氏は「罪なき殉教者の法によるものではない流血、殺人が迅速な結果を招くことは疑いようもない。」

サウジアラビアではテロリズムに協力した罪で47人が処刑された。そのなかには処刑者の中には、

シーア派指導者のニムル師が含まれていた。ニムル師は 2011 年、シーア派が長年差別を受けていることを不服としてサウジアラビアに反対しておきた大規模抗議運動の参加していた。

ニムル師の処刑はイランで激しい論争を巻き起こした。イラン政権の代表らはこの事件は民衆を抑圧する体制の崩壊の予兆となるとする声明を表している

<http://bit.ly/105k5LW>

チプラス首相「ギリシャは投資家の不当な要求には従わない」

(スポーツニク 2016 年 01 月 04 日 09:12)

© REUTERS/ Aris Messinis/Pool <http://bit.ly/1R6hvv0>

ギリシャのチプラス (ティプラス) 首相は「政府は、投資家達との覚書を遂行するだろうが、根拠のない不当な要求には同意しない」と述べた。またチプラス首相は「2016 年は、危機が続いた数年のあとの転換の年になるだろう」と指摘し「ギリシャにとって新しいページが開かれる。今や国を監視人のくびきから解放する目的に近づいている」との確信をあきらかにし、次のように続けた-

「ギリシャは、今年 2016 年、危機から脱出し復活する。投資家や巨大組織の保護下から抜け出すだけではない。そうした事を、今まで何人も思い切って行わなかった。」

ギリシャは、第三の援助を得る代わりに、投資家達と結んだ覚書に従って、大掛かりな改革プログラムを実施する義務を負った。その中には、年金受給年齢の引き上げや、社会保険料の値上げ、年金の削減そして増税等、ギリシャ社会にとって厳しい内容が含まれている。

<http://bit.ly/10ucc6a>

米国は 2016 年の「ダーイシュ (I S) 」殲滅に期待していない

(スポーツニク 2016 年 01 月 04 日 13:30)

© Flickr/ Enno Lenze <http://bit.ly/1NrtliR>

国際テロ組織「ダーイシュ (I S、イスラム国) 」は 2016 年に殲滅されることはない。ベン・ロドス米大統領副参事官、国家安全保障担当のこうした声明を C B S ニュースが報じた。

ロドス米大統領副参事官はホワイトハウスのブリーフィングで「 I S (ダーイシュ) は存在し続ける。翌年も I S 殲滅は不可能」と述べ、「ダーイシュ」をアルカイダと比較し、アルカイダは「確かに著しく規模を縮小したものの、存在し続けている」と指摘した。

その一方で米国は「ダーイシュ」の「安全ゾーン」の数を著しく奪い、これによって「ダーイシュ」がイラク、シリアで掌握している領域はかなり失われるはずだと期待している。CBSニュースはオバマ大統領が12月に行った記者会見で、米国は「ダーイシュ」を「今までかつてなかったほどより強力に」叩くと発言していたことに言及している。オバマ大統領はこの際、「ダーイシュ」は米国を殲滅できるような組織ではないと指摘していた。

米国はイラク、シリアにおける「ダーイシュ」空爆に参加する65カ国の連合軍を率いているが、シリアでの連合軍の活動は現地政権の許可を得ていない。連合軍の行う空爆のおよそ90%が米空軍によるもの。

<http://bit.ly/1PH6MWq>

サウジアラビアがイランと外交断絶

(スポーツニク 2016年01月04日 17:12)

◦ Fotolia/ Borna Mirahmadian <http://bit.ly/1ZuPgYb>

サウジアラビアは3日深夜、地域の最大のライバル国であるイランとの外交関係の断絶を宣言。サウジアラビアのアデリ・アリ・ジュベイル外相は次のような声明を表した。

「サウジアラビアはイランとの外交関係を断絶し、イラン人外交官が48時間以内に出国することを要請する。我々はイランが我々の安全および安定に脅威を与え、我々の国ないし連合諸国の領域にテロの温床を作ることが許さない。我々は外交関係を断絶することが我々にとって最良であると決定した。なぜならばイランはテロの拡散を促し続けているからだ。」

外交断絶の原因と前提条件

2日、サウジアラビアは急進主義グループに関与し、テロを実行したとして多数の死刑を執行した。死刑が執行されたのは47人。大多数が国際テロ組織「アルカイダ」（ロシアで活動が禁止）と関与しており、2003年から2006年にかけてサウジアラビア領内で発生した襲撃の実行犯。ところが最大の反響を呼んだのはシーア派の有名な指導者であったニムル師の死刑だった。ニムル師は2012年7月、大規模抗議行動を扇動した罪で逮捕されていた。イランはニムル師の死刑に対し、迅速に反応した。2日、イラン外務省のホセイン・ジャベル・アンサリ報道官は声明を表し、「サウジアラビアが支持するテロリストが平穏と安全を壊し、この地域に暮らす市民に脅威を与えている間に、サウジアラビア政権はアン＝ニムル師のようなシャイフ（イスラム教の知識人）を自国の政敵として処刑している」と抗議した。これに対しサウジアラビア外務省はイラン大使を呼び出し、抗議の通牒を渡している。

処刑のニュースはイラン社会に大きな不満の波を呼び、テヘランにあるサウジアラビア大使館、メシェヘドの総領事館周辺では大規模なデモ、襲撃が展開されたため、イラン政府は沈静化を余儀

なくされた。

イランの反応

イランはサウジアラビアが外交断絶を宣言したことに対し、「サウジアラビアはシーア派の神学者の死刑という戦略的な誤算を単に深刻化させていると警告し、イラン外務省中東アフリカ問題担当ホセイン・アミル・アブドラヒア次官は「サウジアラビアはイランとの外交関係断絶の決定を宣言することでは、宗教活動家を死刑に処して犯した大きな間違いを隠すことはできない。」という声明を表した。アブドラヒア外務次官はさらに、サウジアラビアの行為は「この地域の安全の脅威を一層深刻化させ、テロや急進主義の一層の拡大を招く」と警告している。

<http://bit.ly/1Rd2zvv>

安倍首相、ロシアとのサミット開催の必要性を主張

(スプートニク 2016年01月04日 16:06)

© Sputnik/ Mikhail Klimentyev <http://bit.ly/10w29xs>

安倍首相は4日、東京での新年の記者会見でロシアとの最高レベルでの交渉は日本にとって、領土問題を解決する上で必要不可欠だと語った。首相は記者団からの2016年にプーチン大統領の訪日は実現可能かという質問に答え、領土主権の問題は最高レベルの会談なしには解決できないと答えている。安倍首相はプーチン大統領の訪日のために最適な時期を常に模索していると述べ、戦後70年以上が過ぎているにもかかわらず、両国の間に平和条約が締結されていないのはノーマルな状況ではないと指摘した。安倍首相はテロ、シリア情勢正常化、イランの核開発などの問題を解決する上でロシアは重要な役割を果たしていると語った。

<http://bit.ly/1mBL6zj>

インド空軍基地で大爆発

(スプートニク 2016年01月04日 16:53)

© REUTERS/ Mukesh Gupta <http://bit.ly/1mwKoUs>

インド、パンジャブ州のパトハコト市にある空軍基地で大爆発。この基地は2日朝、武装戦闘員らによる襲撃を受けていた。ANI通信が報じた。爆発による人的物的損害についてはまだ明らかにされていない。

<http://bit.ly/10I4x6h>

アフガン、カブール空港付近で爆発

(スプートニク 2016年01月04日 17:06)

© AP Photo/ Rahmat Gul <http://bit.ly/1MPUp3X>

アフガニスタンの首都カブール国際空港付近で4日、爆発音が響いた。不審者が爆破装置を起動させた模様。地元のハアマ通信の報道では爆発による人的物的損害はおきていない。爆破装置は自爆犯が作動させたものと報じられている。

<http://bit.ly/1PJhk7C>

トルコ、WTOに対してロシアへの不服申し立てへ

(スプートニク 2016年01月04日 17:28)

© Sputnik/ Ruben Sprich <http://bit.ly/1INuZes>

トルコはWTOに対し、ロシアの発動した制限措置について不服を申し立てる準備を行っている。トルコのエリタシュ経済相はトルコの英字新聞「デイリー・サバフ」に対して、こう語った。エリタシュ経済相は、現在、証拠収集が行われており、「我々は国際裁判を通じて、損なわれた権利を全て回復していく。取引は道徳的基盤を持たねばならない」と語っている。

ロシアが制限措置を講じたため、トルコの実業界は食料品セクターでも観光セクターでも著しい損失を受けている。「デイリー・サバフ」紙によれば、トルコは輸出先をケニア、ナイジェリアなど他のアフリカ諸国へ転化しようとしている。

これまで、ロシア経済発展省のアレクセイ・リハチョフ次官はロシアとトルコ間の貿易取引量はここ数年で最小の180～190億ドル以下となるという予測を発表していた。

対トルコ特別経済措置は1月1日よりロシアによって発動された。1月1日よりトルコからロシアへは食糧品の輸出が禁止されたほか、チャーター便、ビザなし渡航が取りやめとなり、ロシアの雇用者の大半にトルコ人労働者の雇用を禁じられた。プーチン大統領はさらにロシアにあるトルコの法人組織の活動を禁止または制限するよう指示している。

ロシアとトルコ関係は、シリアでロシアのSu-24爆撃機がトルコ側により撃墜された事件の後、危機的状況となっている。11月24日、ロシア機Su-24が、シリアで墜落した。ロシアのプーチン大統領は、テロリストの共犯者たちによる「裏切り行為だ」と指摘した。

<http://bit.ly/1SvULUJ>

ウクライナ、自国領内に米軍基地配備は無し

(スプートニク 2016年01月04日 17:50)

© AP Photo/ Czarek Sokolowski <http://bit.ly/10I5b3F>

ウクライナの法律では国内における米軍基地の建設の可能性は見越していない。ウクライナのステパン・ポルトラク国防相はウクライナ・ニュースからのインタビューに対し、こう語った。ポルトラク国防相は、米国とウクライナの軍人は経験を交換しているが、軍事基地建設の問題は取り上げられていないと語った。

「こうした問題は取り上げられていない。ウクライナの法律はこうした可能性を見越してはいない。我々は互いに学び、経験を交換しあうことを促す緊密な協力を行っている。」

ポルトラク国防相はさらに、ウクライナはNATOの標準に一日も早く移行できるよう、ウクライナ、ポーランド、リトアニアの旅団の早期編成に期待していると付け加えた。

<http://bit.ly/1071MbD>

イラク、首都周辺のスンニ派寺院2箇所爆発

(スプートニク 2016年01月04日 18:21)

© REUTERS/ Stringer <http://bit.ly/1VD7N2f>

4日、イラク中心部の2つのイスラム教寺院で軍服を着た男性グループが爆弾を炸裂させた。AFP通信が警察、医療関係者の証言を引用して報じた。消息筋の情報によれば、事件が起きたのはバグダッドの南のヒラ地区にあるスンニ派のイスラム教寺院。AFP通信の報道ではこのほかに、バグダッドに近いエル・イスカンダリヤ市でイスラム教の礼拝の開始を告げるムアッジンが自宅付近で殺害された。

<http://bit.ly/1Rnhph9>

米オレゴン州、武装市民150人が自治体の建物を占拠

(スプートニク 2016年01月04日 18:34)

© Ruptly. Ruptly TV <http://bit.ly/1mBMqSR>

米国オレゴン州にあるマルヒュア国立自然保護区の本部が武装した150人近い市民に占拠された。武装した市民は「連邦政権の圧政」に抗議を表明し、これから先も他の自治政府の建物を占拠し、市民らに対して抗議に加わるよう呼びかけると宣言している。「我々はこの土地の市民の自由な暮

らしを求める。畜産者は家畜を放牧し、木こりは木を切り、鉱山夫は鉱山で働く。彼らは圧政を恐れることがないように、保護される。」グループの先導者のひとり、アモン・バンディ氏はこうした声明を表した。現地では学校は一時休校となり、自治体は市民に抗議運動の行われている場所を訪れないよう呼びかけている。

twitter.com <http://bit.ly/1ZL3zbh>

こうした行動の原因となったのは地元農場経営者たちに刑事責任が追求されたこと。これより前、農場経営者たちは放火の罪で起訴され、事件は反テロ法の枠内で検討に付された。農場経営者らの行為がなぜテロとみなされたかについては地元民らには一切説明がなされていない。農場経営者らは刑期を終了したものの、連邦裁判所は刑期はあまりに短いと判断し、再度刑務所に戻るよう命じた。こうした政権側のアプローチが地元民のみならず、連邦政府に批判的な意見を持つ市民らの不満を煽り、今回の抗議行動につながったものと思われる。

twitter.com <http://bit.ly/1mBMC4w>

<http://bit.ly/1Rd4RdV>

ドネツクの村でウクライナ軍が一昼夜に 10 回を越す銃撃

(スプートニク 2016 年 01 月 04 日 18:48)

◎ Sputnik/ Dan Levy <http://bit.ly/1PC10eh>

ウクライナ東部のドネツク人民共和国、国防省はウクライナ軍からの 10 回にわたる銃撃の結果、ドネツク人民共和国の軍人 2 人が負傷したことを明らかにした。ウクライナ側はミンスク合意の野蛮な違反を続けている。共和国のスタロベシエフスキー地区のペトロフスコエ居住区が銃撃された。狙撃銃による 10 回を越える銃撃が行われた。ドネツク人民共和国国防省がドネツク・ニュース通信に対し明らかにした。この結果、ドネツク人民共和国軍の 2 人の軍人が負傷したものの、一般市民の中には死傷者は出ていない。

<http://bit.ly/10Ikxz0>

「ダーイシュ (IS)」、英国スパイ 5 人を死刑で英首相に警告

(スプートニク 2016 年 01 月 04 日 18:51)

◎ REUTERS/ Social media via Reuters TV <http://bit.ly/1HEkkKX>

「ダーイシュ (IS、イスラム国)」のテロリストらがキャメロン英首相を警告する目的で 5 人の英国人スパイの死刑を撮影したビデオを公開。インディペンデント紙が報じた。ビデオには英国特

務機関のためにスパイ行為をはたらいた罪で5人の男性がオレンジ色の服を着て写っている。インディペンデント紙は、この5人は英国人ではない可能性もあるものの、連合軍側で勤務し、ラッカから外国特務機関に写真や動画を届けていたことは明白と書いている。

死刑の前に覆面をした武装戦闘員の1人が、これは「デーヴィッド・キャメロンへのメッセージ」であると述べ、英国首相を「白痴」、「ホワイトハウスの奴隷」だと呼んだ。英外務省は現在、このビデオを検証しているものの、現段階ではその信憑性は確認できていないという声明を表している。

<http://bit.ly/1PccJpF>

CSI300 指数が 7.02%下落で中国の証券市場が一時取引を中断

(スプートニク 2016年01月04日 19:19)

© REUTERS/ Bobby Yip <http://bit.ly/1VDbjcQ>

上海および深セン証券市場は4日、CSI300指数が7.02%も下落した後、取引を一時中断した。上海証券市場のインデックスである上海コンポジット指数は年明けの初取引で6.85%ダウンの3,296ポイントに、深セン取引所のインデックスも8.1%下落した。AP通信の報道では、この数値はCSI300指数が過去3ヶ月で示した最低値。

取引は取引を中断する新たなメカニズムにより、一時ストップされた。メカニズムは取引所での急激な上下変動を抑制するため導入されたもの。CSI300指数と連動しており、指数が5%幅で急激に上下する際に自動的に作動し、取引を15分間にわたって一時停止させ、また上下変動が7%に達するとその日の終わりまで取引を停止させる。中国中央銀行は4日、元の対ドル交換レートを1ドル6.5元に引き下げた。

<http://bit.ly/10w3SmB>

ポロシェンコ大統領、「エコノミスト」誌の表紙写真をフェイク、プーチン大統領の代わりに自分を掲載

(スプートニク 2016年01月04日 20:16)

© AFP 2015/ TOBIAS SCHWARZ <http://bit.ly/1mB0dHm>

ウクライナのポロシェンコ大統領は自身のツイッターに影響力のある雑誌「エコノミスト」誌の表紙のフェイクを掲載。リメイクされた表紙にはポロシェンコ大統領が世界の指導者に囲まれて写っている。

twitter.com <http://bit.ly/1Z3AXwX>

「エコノミスト」誌の30号は従来通り、2016年の予測を掲載したもの。「エコノミスト」誌は来年、国際的な議題を決める、影響力のある人物について説明しており、表紙にはリーダーらに囲まれ、中心にプーチン大統領の写真が掲載されていた。

オリジナル写真に限りなく近いフェイク写真をポロシェンコ大統領は自身のツイッターで公表。だがこの写真はなぜか2017年号になっており、プーチン大統領がいた場所にポロシェンコ氏が鎮座。ポロシェンコ大統領がフェイク写真に書いたコメントは「贈り物のいくつかはお世辞としてではなく、人物への責任感として受け止めている。祝日の日程を話し合っている」というもの。ポロシェンコ大統領のツイッターは、表紙はオリジナルに対するパロディーだと指摘する皮肉たっぷりのコメントを多く集めている。

twitter.com <http://bit.ly/1RnkBcF>

twitter.com <http://bit.ly/1kGQ1MI>

twitter.com <http://bit.ly/1kGQhg6>

twitter.com <http://bit.ly/1mBOVvh>

twitter.com <http://bit.ly/107p6na>

twitter.com <http://bit.ly/1UrBi66>

twitter.com <http://bit.ly/1R8g9jf>

<http://bit.ly/1Z2bkHF>

ロシアはサウジアラビアとイランの対話の仲介者となることができる

(スプートニク 2016年01月04日 21:05)

© AFP 2015/ Alexander Nemenov <http://bit.ly/10Iy21E>

ロシア政府はサウジアラビアとイランとの間の対立の調整をすることができる。リア・ノーヴォスチがロシア外務省の信頼できる情報筋からの情報を引用して報じた。ロシア外務省の情報筋は、「シリア危機の政治的調整において我々はいわばサウジアラビアとイラン参加のウィーン同盟を作り上げることに成功した。この関係がシリアにおける政治的調整のなかで積極的な役割を続けることを期待している」と語っている。

この情報筋は、実質的にロシア政府とイラン、サウジアラビアとの間には良好な関係が築かれており、友好国として必要ならばこれら二つの国の間で調整役を果たすだろうという見解を表している。

<http://bit.ly/1R81rv9>

バーレーンとスーダン、サウジアラビアに続いてイランと外交断絶

(スプートニク 2016年01月05日 00:54)

◎ REUTERS/ Raheb Homavandi/TIMA <http://bit.ly/1VDqFOJ>

サウジアラビアに続いて今度はバーレーンがイランとの外交関係を断絶。ロイター通信が報じた。バーレーンに駐在するイラン人外交官は48時間以内に出国せねばならない。これまでバーレーン警察は、サウジアラビア政権によるシーア派指導者のニムル師の死刑に関連して起きた抗議行動を鎮圧し、参加者ら数名を拘束している。なお、スーダンもイランとの外交関係を断絶を宣言。

<http://bit.ly/1UrI2Rt>

露下院、トルコのWTOへの不服申し立ては「悲喜劇的」

(スプートニク 2016年01月04日 22:16)

◎ Sputnik/ Vladimir Fedorenko <http://bit.ly/1Z3MyfC>

ロシア議会下院安全保障汚職防止委員会のイリーナ・ヤロヴァヤ委員長は、トルコ側が表したWTOに対し、対トルコ輸入制限措置を発動したロシアへの不服を申し立て準備を行うという声明を悲喜劇的と評した。

ヤロヴァヤ委員長はリアノーボスチ通信からのインタビューに対して、「トルコ政権の道徳性についての声明は悲喜劇的だ。悲しくて、同時におかしい。悲しいのは、国民の利益をIS（ダーイシュ）のテロリストと犯罪的ビジネスに挿げ替え、シリア国民の破産と強奪に参加しているトルコ政権の行為によって損害を蒙っているトルコ国民だ。そしておかしいのは、WTOの合意に国連憲章の国際平和と安全の維持要求を遂行義務という重要な項目があることが明白であるのと同様、この声明の嘘が明らかだからだ」と語っている。

ヤロヴァヤ委員長は、トルコが届出を出すことで、これがテロリズムに対する資金調達という主たる問題を回避することにつながっていないわけではないと指摘している。

ヤロヴァヤ委員長は、WTOの活動の基礎をなす総合合意の221章のタリフおよび取引についての項目に照らし、WTOの規則の何も合意した側に対し、障害となる行為をとってはならず、国連

憲章の基礎にある国際平和と安全の維持の義務の執行において行為をとってはならないと説明している。

<http://bit.ly/1RdhjdD>

サウジアラビアとイランの対立が石油価格の高騰を引き起こす

(スプートニク 2016年01月04日 22:46)

© AFP 2015/ Ali Al-Saadi <http://bit.ly/1J3JMu3>

石油価格がリヤドとテヘランとの現行の対立を背景に世界的に高騰しているとウォールストリートジャーナルが報じている。石油価格が休日に起こったサウジアラビアとイランの政治的緊張の高まりのため週明けに3%以上も跳ね上がったこと、また石油の供給が滞る可能性について伝えられた。ニューヨーク・マーカンダイル取引所における原油価格は1バレル当たり38.32ドルまで上がった。ロンドン国際石油取引所における2月のブレント原油先物取引価格は12月3日夕刻に38.50ドルに達した。野村ホールディングス資源市場研究所所長のゴールドン・クバン氏は近い将来、高まる緊張が石油価格を押し上げるだろうが、市場は需要と供給の現実的な均衡の復活を望んでいると考える。

<http://bit.ly/1JqAfmd>

ターイシュ（イスラム国）の成員によってリビア最大規模の石油港が攻撃される

(スプートニク 2016年01月04日 23:51)

© AP Photo/ File <http://bit.ly/1PJumZ6>

ターイシュ（イスラム国）の戦闘員とリビア最大規模の輸出ターミナル EsSider の警備隊との間で衝突が起こったと目撃者と軍人の話をもとにロイター通信が報じた。攻撃の事実は現在のところ公式には確認されていないとしている。政府の側も衝突が港からどれほどの距離で起こったのかを明示していない。昨年10月にはすでに EsSider に対する戦闘員の集団による攻撃が試みられていることが伝えられている。

リビアの石油採掘量の半分を扱う二つの巨大な輸出ターミナルである EsSider と RasLanuf は2014年の12月に活動を停止している。リビアは対立する二つの政府の戦闘地域にあり、そのためイスラム国の集団的戦闘員らによっていくつかの石油港が廃止させられたり産油地が奪われたりしている。

<http://bit.ly/1kH0tFf>

マスコミ：ダーイシュ（イスラム国）の戦闘員によって化学兵器が使用される

（スポーツニク 2016年01月05日 02:16）

© Fotolia/ Nevenm <http://bit.ly/1YDFdm0>

英国のジャーナリストがロシアで活動が禁止されているテロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）」による化学兵器を使った攻撃の証拠を示した。The Sunday Times 誌は2ヵ月ほど前にイラク北部の町マフムールで撮影された映像を入手した。雑誌は、戦闘員を追い出すための迫撃砲による攻撃のそばで白や明るい褐色の巨大なガスの雲が噴出しているのが見えたと確信している。

この週刊誌が報じるによれば、はじめ、100ヤード内におさまった戦闘員たちが冗談を交わしはじめるのが聞こえたが、煙が彼らの進路を遮るや彼らはすぐにしりぞいたということだ。The Sunday Times 誌はこの物質がスコットランドでの仕事を辞めイスラム国と戦闘状態にあるクルド人を助けるためにイラクに渡ったイギリスのベテランボランティアの手によってもたらされたと主張する。

彼によると、ペシュメルガの20人の戦士はこの化学兵器の攻撃後に深刻な胸部の細胞と肺への外傷のため入院したということだ。彼はイスラム国の首都ラッカを化学兵器の生産地と呼ぶが、テロリストによってクルド人に使用された砲弾の中身がアンモニアであった可能性も否定できないという。

<http://bit.ly/1TAVrq7>

シャルリー・エブド、襲撃を記念してテロリストの神を描く

（スポーツニク 2016年01月05日 02:45）

© AP Photo <http://bit.ly/1TAVQJ1>

フランスの風刺週刊誌シャルリー・エブドの編集部襲撃事件に捧げられた特別号の表紙はジャーナリスト銃殺の責任を描いたものであった。

twitter.com <http://bit.ly/1Rdj6PS>

最新号は1月6日に発売された。BFM TVの番組によると、表紙を飾ったのは一般化された神の姿の風刺画であった。というのは、血をはねかけられた長い服を身にまとい、サンダルをはき、背後にカラシニコフの自動小銃を持ったあごひげを生やした男性の絵だ。1年が過ぎて、殺人者はいまだに捕まっていない。編集長ロラン・スリッソ氏による絵にはそう添えられている。

特別号の社説ではジャーナリストが、あえて宗教を笑ってみせる出版物を撲滅することを願う狂信者を非難している。シャルリー・エブド襲撃事件が起こったのは今年の1月7日で預言者モハメ

ッドの風刺画が出版された後の事であった。二人組の凶悪犯は編集部に押し入り、居合わせた人々に銃弾をあびせかけた。12 人もの人が死にその中には 2 人の警官も含まれる。襲撃者は現場からそっと姿を消した。

<http://bit.ly/1JqB3ra>

ポーランド 国内にNATO軍部隊の配備を求める

(スプートニク 2016 年 01 月 05 日 15:31)

© Sputnik/ Oksana Dzhadan <http://bit.ly/1R8HtxZ>

ポーランドのヴァシチコフスキ外相は、ドイツの新聞「ビルト」のインタビューに応じ「ポーランドは、NATOにおいて西ヨーロッパ諸国と同様の安全保障上の地位を持ちたい」と述べた。また外相は「ポーランド領内にNATO軍部隊を配備する事が、その第一歩だ」と付け加えた。

ヴァシチコフスキ外相は、次のように述べた—

「ポーランドは、16年に渡りNATO加盟国だが、我々の地位は、西ヨーロッパ諸国のものとはひどく異なっている。このアンバランスをなくすため、NATOがポーランド国内に、軍隊を置くよう望む。ドイツは、ロシアを挑発しないよう軍部隊の配備を、ここ数年邪魔している。ドイツ当局は、ポーランドから自分達が望むものを、はっきりさせなくてはならない。」

先に明らかになったところでは「EUは、マスコミに関する法律を理由に、ポーランドへの圧力を強化する考えだ」との事だ。

<http://bit.ly/1S1qbTC>

コルシカ 島民の三分の二が独立に関する住民投票実施に賛成

(スプートニク 2016 年 01 月 05 日 15:36)

© AP Photo/ Jean-Pierre Belzit <http://bit.ly/10Jh6bd>

世論調査の結果によれば、地中海に浮かぶフランス領コルシカ島の住民の三分の二が、独立に関する住民投票実施に賛成している。

昨年 12 月 13 日実施された地方選挙で、政治ブロック「コルシカのために」が勝利し、コルシカ島の行政権力機関は、穏健な民族主義的路線を取る勢力に移った。この政治運動体は、自治の拡大を主張し、フランス東京に対しそれを求めている。また彼らは、コルシカの言葉をフランスの公用語として認めるよう求めるほか、税制上の特別措置が講じられ、政治犯の恩赦がなされるよう要求

している。

コルシカの多くの住民は、例えばコルシカ人は、フランス本土の人達より、仕事場での昇進がはるかに遅いなど、フランス中央政府が多くの領域で自分達を差別していると強い不満を持っている事から、将来的に、住民投票をすべきだとの考えが広がっている。

一方、フランス人自身の3分の1も、コルシカの分離を望んでいる事を付け加えておかなければならない。そうした人々は、コルシカでの犯罪発生率が、西ヨーロッパで最も高い水準にあることを、その理由として挙げている。

<http://bit.ly/1S1qoGr>

サウジアラビア イランとの関係復活の条件を示す

(スプートニク 2016年01月05日 15:49)

◦ AP Photo/ Vahid Salemi <http://bit.ly/1kHAu08>

サウジアラビアのムアリミ国連大使は「イランとの関係は、イラン当局が『サウジを含め、他の国々の内政への干渉』を止めれば、復活される」と述べた。ロイター通信が伝えた。

2日、サウジアラビア外務省は、イスラム教シーア派の聖職者ニムル師をふくめ47人を処刑した。ニムル師処刑のニュースは、シーア派を信奉する政治家や宗教活動家達の激しい怒りを呼び起こし、大衆抗議行動が各地に広がり、イランの首都テヘランでは、人々がサウジ大使館を放火するなどした。こうした事から、サウジアラビアはイランとの国交断絶を宣言するに至った。

<http://bit.ly/107VFRW>

ロシア 厳寒に苦しむウクライナの町ゲニチェスクへのガス供給を開始

(スプートニク 2016年01月05日 16:27)

◦ Sputnik/ Alexey Malgavko <http://bit.ly/10wAa09>

ウクライナ南部ヘルソン州の町ゲニチェスクの住民は、ロシア政府に対し、住民居住区が極めて厳しい寒さに襲われていることから、ガスの供給を開始するよう求めた。5日、ロシアのドミトリー・ペスコフ大統領報道官が明らかにした。報道官はまた「プーチン大統領は、この問題を迅速に解決するよう指示した」と伝えた。

こうした情報が流れてからすぐ、ロシアのドミトリー・コザク副首相は「ロシア政府がウクライナのゲニチェスクへのガス供給を開始した」と発表、「現在、ガスはクリミア領内を通過して、この

町に届きつつある」と述べた。

2日、厳しい寒さの影響で、ゲニチェスクの公共ガスパイプラインの圧力が急激に下がった。その結果、1,800人が住む高層アパートや、独立家屋400世帯へのガスの供給がストップした。

<http://bit.ly/1mCollz>

国連安保理事会 トルコからシリアへの武器供与問題を討議

(スプートニク 2016年01月05日 17:20)

© AP Photo/ Raqqa Media Center of the Islamic State group <http://bit.ly/1MVKMEh>

国連安全保障理事会は、トルコからシリアへの武器供与問題を討議する。今月1日、国連安保理事会で議長国を務めるウルグアイのエルビオ・ロッセリ国連大使が伝えた。ロッセリ大使によれば、会議は非公開で行われる。

12月、国連のロシア代表団は、トルコ領内を通じてシリアへの武器の供給が続いている事に関連して不安感を表明した。ロシア政府は、現在ある国連のモニタリングメカニズムを、人道援助物資としてシリア領内に持ち込まれるものも含め、あらゆる物資に広げるよう提案している。

<http://bit.ly/1R8IaY5>

米国防総省「我々はロシアを脅威とみなし続けるが、ロシアは米を脅威とみなすに及ばない」

(スプートニク 2016年01月05日 17:39)

© AFP 2015/ Frederic Wallois <http://bit.ly/1Z74dmt>

米国防総省は「ロシアは、米国を脅威とみなすには及ばない」と主張している。これは月曜日4日、米国防総省のデヴィス報道官が、記者団に対し、ロシアの新しい国家安全保障戦略についてコメントしたさい述べたものだ。

12月31日プーチン大統領は、ロシアの刷新された国家安全保障戦略を承認した。AFPの報道では、デヴィス報道官は、次のようにコメントした—

「ロシアには、我々を脅威とみなす理由がない。我々は、ロシアとの紛争を目指してはいない。米ロ間には、意見の違いはあるが、米国をロシアの脅威と見るのは、根本的に正しくない。ロシアの新戦略については、公開された情報しか知らない。今後結論を出す前には、テキスト自体に目を通したい。」

また同じく月曜日、米国のダンフォード統合参謀議長は「米国は、ロシアを今も脅威とみなし続けている」と述べ、次のように指摘した—

「米国は常に、ロシアの力がどう発展して行っているのか、注意深く見守ってきた。ロシアは、我々にとってチャレンジャーである。我々は、ロシアの行動や、核、サイバー、通常兵器を含めた力を根拠に、そして我々の同盟国への脅威を考慮にいれながら、そうした結論を出している。」

<http://bit.ly/1PJbJwc>

ロシア航空宇宙軍 新たなS-400 連隊をモスクワ郊外に配備

(スプートニク 2016年01月05日 18:17)

◦ Sputnik/ Mihail Mokrushin <http://bit.ly/1Nudlft>

モスクワ郊外に駐留するロシア航空宇宙軍対空防衛兵団に、地对空ミサイルシステムS-400「トリウム」を持つ新しい連隊が配備された。4日、ロシア連邦国防省、報道情報局が伝えた。S-400ミサイルの発射テストの際、軍人達は、高度と速度のあらゆる領域において空中の仮想標的に見立てたミサイルを10基以上、高い精度で破壊した。

今回、ロシア航空宇宙軍対空防衛兵団において、新たなシステムが戦闘準備態勢に入る事で、最新型の地对空ミサイルシステムを持つ対空ミサイル連隊は4つになる。今回配備されたS-400「トリウム」は、モスクワとロシア中央部の産業地帯を空からの攻撃から守るものだ。

<http://bit.ly/1SyAZYu>

クウェート イランから自国大使を召還

(スプートニク 2016年01月05日 18:51)

◦ AFP 2015/ YASSER AL-ZAYYAT <http://bit.ly/1VGXaeJ>

クウェートは、イランの首都テヘランでサウジアラビア大使館が群衆に襲撃された事件を受けて、自国の大使を召還した。AP通信が伝えた。

1月2日、サウジアラビア外務省は、イスラム教シーア派の聖職者ニムル師をふくめ47人を処刑した。シーア派を信奉する政治家や宗教活動家達の激しい怒りを呼び起こし、イランでは群集が首都テヘランのサウジ大使館、同国北東部マシュハドのサウジ領事館を襲撃し、火炎瓶を投げ建物に放火するなどした。

こうしたことから、サウジアラビアを初め、すでにバーレーン、カタールなどの国々が、イランとの外交関係断絶に踏み切っている。

<http://bit.ly/1TDnIw9>

ルーカス監督「自分より、ソ連の映画監督のほうが自由だった」

(スプートニク 2016年01月05日 19:28)

◎ Flickr/ Phillip Shum <http://bit.ly/1Uve7Yo>

大ヒット映画「スターウォーズ」の生みの親、映画監督のジョージ・ルーカス氏は、チャーリー・ローズ氏のインタビューを受けた中で、創作の自由のなさについて不平を述べた。この記事は、新聞 The Wall Street Journal に掲載された。インタビューの中で、ルーカス監督は、次のように発言した—

「我々が生きている世界、そして我々が自分で自身のために創り出した産業システムの中では、金を失うことは許されない。だから、ある一定の映画を撮るよう強いられる。私は、まだソ連時代に『あなたは。米国で生活していることが嬉しくないのか』と質問されたが、そう聞いてくる人たちに対して常に、私は多くのロシアの映画監督を知っているが、彼らのほうが私よりずっと自由だ、と答えたものだ。彼らにとって必要なのは、政府から批判を受けないよう十分注意深くする事だけで、そうすれば、好きなものを撮る事ができた。」

なお新聞は、ブリストル大学の研究者、ビルギット・ボイマース氏の著書『ロシア映画の歴史』の一部を、こうしたルーカス監督の意見に反論するものとして引用している。

彼女の著作の中では、1967年から1982年までのソ連のブレジネフ時代、所謂「停滞」の時期のソ連・ロシア映画の映画監督は、一般大衆に受け入れられない自分達の表現方法のために困難を経験し、そのシンボリズムが、時の政治課題に反する可能性がある事で、つらい目にあつた、と述べられている。

<http://bit.ly/1kKduhr>

モスクワはロシア軍参謀本部情報総局長官の早すぎる死を悼む

(スプートニク 2016年01月05日 20:02)

◎ 写真: Wikipedia <http://bit.ly/1JWwGz7>

プーチン大統領は、ロシア連邦軍参謀本部情報総局（GRU）のイーゴリ・セルゲン長官の早すぎた死に関連し、親族と近い友人達に対して哀悼の気持ちを表明した。ロシア大統領府報道部が

伝えた。弔電の中では次のように述べられている―

「イーゴリ・ドミトリエヴィチの全生涯、スヴォロフ軍事学校の士官候補生時代から、ロシア連邦軍参謀本部副参謀長の時代まで、それはすべてロシアと軍に捧げられたものだった。」

プーチン大統領は「セルグン氏の同僚や部下達は、真の軍司令官として、経験豊かで権威ある指揮官として、又男の中の男である本当の愛国者として彼を知っていた」と指摘している。セルグン氏は、1957年3月26日に生まれ、モスクワのスヴォロフ軍事学校、モスクワ高等軍事学校、ソ連軍事アカデミー、ロシア連邦軍参謀本部軍事アカデミーを卒業、軍事科学修士だった。

ロシア軍には、1973年に入り、1984年から軍事諜報の道を歩んだ。彼が、ロシア連邦軍参謀本部情報総局長官に任命されたのは2011年のことだった。昨年2015年2月21日には、大将に昇進していた。

<http://bit.ly/1Z75GJv>

北朝鮮の使節団が1998年以来はじめて世界経済フォーラムに参加か

(スプートニク 2016年01月05日 20:46)

◎ Sputnik/ Aleksander Kryazhev <http://bit.ly/1MROZ8F>

北朝鮮のリ・スヨン外務大臣がスイスのダボスで1月の20日から24日にかけて行われる国際経済フォーラムに参加する見通しだ。KBSテレビが韓国の外交界からの情報として伝えたところによると、北朝鮮の外務大臣が四日間スイスに滞在する可能性が高いということだ。世界経済フォーラムの開催期間中にリ・スヨン氏が現在の指導者であるキム・ジョンウン第一書記の就任以降北朝鮮に起こった変化について紹介することが予想される。もし北朝鮮外務大臣の世界経済フォーラムへの参加が確認されれば、北朝鮮の使節団が出席する1998年以来はじめての行事となる。2016年、世界経済フォーラムはダボスで1月の20日から23日に渡って開催される。このフォーラムの主要なテーマは「第4の産業革命」だ。

<http://bit.ly/1mAD6z3>

米中央軍元司令官「サウジとイランの紛争が、全面戦争に発展する可能性あり」

(スプートニク 2016年01月05日 22:20)

◎ AP Photo/ Ebrahim Noroozi <http://bit.ly/1S2VZHD>

米中央軍元司令官のアンソニー・ジーニー退役海兵隊大将は、Fox Newsのインタビューに答えた中で「サウジアラビアとイランの間の紛争がエスカレートすれば、全面戦争に発展する可能性がある

る」と警告した。ジーニー元大將は、次のように述べた—

「今の状況は、地域の経済と安定に無関心ではいられない国々すべての懸念を呼び起こしている。非常に心配なニュースだ。もし、何らかの深刻な形で紛争が先鋭化した場合、それはイランとサウジの間の全面戦争に発展する恐れがある。それは、ペルシャ湾地域に近づくことを不可能にし、船の航行や原油ガスの輸送を制限するものとなる。またサウジとイランの間の紛争は、ダーイシュ（IS、イスラム国）との戦いから人々の目をそらし、米国政府を支持する地域の国々の国内情勢不安定化を誘発することにつながるだろう。」

<http://bit.ly/10Lscmy>

イラン大統領「サウジ当局は国交断絶によって自らの罪を隠すことはできない」

(スプートニク 2016年01月05日 22:42)

© AP Photo/ Presidency Office <http://bit.ly/1mECCGr3>

イランのロウハニ大統領は「外交関係断絶に関するサウジ当局の決定は、シーア派聖職者ニムル師処刑という犯罪を隠す助けにはならない」と指摘した。ロイター通信が伝えた。イルナ通信によれば、ロウハニ大統領は、首都テヘランでデンマークのヤンセン外相と会談した中で「サウジアラビアは、イランとの政治的関係断絶を助けとして、シーア派聖職者処刑という自分達の犯罪を隠そうとしているが、そうしたことは不可能だ」と述べた。

1月2日、サウジアラビア外務省は、イスラム教シーア派の聖職者ニムル師をふくめ47人を処刑した。ニムル師処刑のニュースは、シーア派を信奉する政治家や宗教活動家達の激しい怒りを呼び起こし、大衆抗議行動が各地に広がり、イランの首都テヘランでは、人々がサウジ大使館を放火するなどした。こうした事から、サウジアラビアはイランとの国交断絶を宣言するに至った。

<http://bit.ly/1Rqrqdf>

2016年、我々を待つものは何か、欧米は牙をむくのを止め、ロシアに微笑むか？

(スプートニク 2016年01月06日 00:17 アンドレイ・イワノフ)

© Fotolia/ Maxximm <http://bit.ly/1IPMYiq>

2016年が一体どんな年になるのか、楽観的に予想する事は出来ない。占星術者から始まって、地質学者や政治学者らは、皆仲良く、地球規模の自然災害から第三次世界大戦まで、人類にあらゆる災いが降りかかると予言している。実際果たして、すべてはそんなにひどい状況なのだろうか？ 以下モスクワ国際関係大学のアンドレイ・イワノフ上級研究員の意見を御紹介したい。

起こり得る自然災害として、まず心配されているは、アジア諸国を襲う恐れがあるという干ばつ、そして欧州に洪水を引き起こす大雨だ。実際すべての大陸の沿岸地帯は、巨大な津波に見舞われる可能性がある。米国イエローストーンの巨大火山が爆発する危険は、今年も除外されてはいない。しかし、恐らくそうした事は、起こらないだろう。それらを阻止しようと努力しながら、我々は、自分達が生き残り、何も起こらないように願い続けることになるだろう。

とはいえ、軍事的政治的な大変動は、また別の問題である。そうした変動が起きる可能性は少ない。昨年ロシア及び欧州では、しばしば、ブルガリアの盲目の女性預言者ワンギが残した言葉が思い起こされた。あのヒトラーさえ彼女の予言を恐れ、無神論国家であるソ連その他の社会主義諸国の指導者らも、彼女の言葉に耳を傾けたと言われている。ワンギは、チェルノブイリ原発事故やソ連邦の崩壊、原子力潜水艦「クルスク」の沈没事故などを予言した。そして昨年 2015 年は、シリアにおける戦争についての彼女の予言が、また欧州及びアジア、米国の人々は「大気中に溶け込んだ死」により非業の死を迎えるだろうとの彼女の言葉が、大きな注目を集めた。

他の予言も話題となった。シリアトルコ国境付近にあるテロリストらの陣地を空爆していたロシア機スホイ 24 に対するトルコ空軍機の背信的撃墜行為、そしてロシアのそれに対する厳しい反応は、多くの人々、とりわけギリシャ人に「イスタンブールがロシア人によりギリシャに渡され、この町が再びキリスト教（正教）の町コンスタンチンノーブルになる」というギリシャ修道士パンスィヤの予言を思い起こさせた。

さらに、誰が予言したかは定かではないが「第 44 代の米国大統領は黒人になり、彼が米国最後の大統領となる」という古い予言が人気を集めた。ただ何故そうなるのか、イエローストーンで大噴火が起こるからか、恐ろしい巨大津波を誘発する能力を持ったロシアの無人原子力潜水艦によるものなのか、米国のマスコミは確認していない。

一方、ロシアにも、その崩壊も含めた様々な不愉快な予言がなされている。中でも特に懸念されているのは、ウクライナ関連の諸問題の今後だ。しかしロシアも、もしできるだけ短期間に経済を改革し、原料やエネルギー部門への依存度を、最新のハイテク産業を発展させることを通じて減らしてゆかなければ、深刻な状況を迎えるだろう。我々自身も、その事をよく理解している。

また我々の西側の「パートナー達」の行動も、プーチン大統領が述べているように、我々に危険をもたらすかもしれない。米国やEUそしてNATOでは、ロシアに起因する危険について論じる事が好まれている。ロシアの攻撃的性格の例として挙げられているのが「クリミア占領」だ。しかしこれは実際のところ、ウクライナの中央政権を不法に奪取した「僭称者」に従うことを望まなかったクリミアの住民の意志により、ロシアに再編入されたのである。

またマレーシア機の墜落事件について言えば、ロシアは、この悲劇に何の関係もない事がはっきりしているにもかかわらず、罪を着せられている。さらに合法的に選ばれたシリア政府の要請によって行われている、シリア領内でのロシア軍機による空爆は、ロシアが「西側との協力」を望まないあかしだとされている。

ロシアの脅威という作り話を特に熱心に言い立てているのは、旧東ヨーロッパ諸国あるいは旧ソ連邦構成共和国だ。例えば、バルト三国は、自国市民と欧州諸国の人々に対し「ロシアは、ロシア語系市民の擁護を口実に、バルト三国を侵略するつもりだと言って怖がらせている。なおここで特に、バルト三国に住むロシア語系市民は、実際これまでしばしば、差別されているが、ロシアは、すでにはっきりと彼らを守るために軍事的手段を行使するつもりのない事を言明している点を、指摘しておきたい。それにもかかわらずNATOは、こうしたロシアに関するあらゆる恐怖物語を信じるふりをしながら、対ロシア国境付近に、重兵器を移動している。こうした中、ロシアに残された道はどんなものだろうか？ それは、自分達の軍隊の近代化プロセスを加速化させる事である。

しかしロシアを隔離し抑え込もうとする政策の有害さについては、冷静なものを見方をする人々の間では、ますます明らかになりつつある。明白なのは、ロシアにとっても西側にとっても、そして人類全体にとっても、敵は共通しているという事だ。それは、テロリズムであり、宗教的過激主義であり、経済発展における格差であり、疾病、環境悪化、気候変動である。ロシアも、こうしたあらゆる諸問題との戦いにおいて、西側と協力する用意がある。けれども西側は、今のところ、ロシアとの戦いの方をよしとして、不自然な口実のもと、ロシアに対する新たな制裁措置を導入しようとしている。まさに今、我々は、昔話の小さなアライグマの話の思い出す時なのではないだろうか。その話とは、一匹の子供のアライグマが川を渡る際、川の中にいるものを威嚇しようとして牙をむいたが、実は相手は川面に映った自分の姿で、それを見て肝をつぶした、というものだ。後でアライグマのお母さんは、子供に「そういう時は微笑まなくてはいけない」とアドバイスした。さて現在我々は、ロシアを恐れる西側の政治家達に、牙をむくのではなく微笑みかけなくてはならないのだとアドバイスできる人物を、果たして見つける事ができるだろうか？

<http://bit.ly/1RgA53T>

サウジアラビア アジア市場向け原油価格引き上げ

(スプートニク 2016年01月06日 03:10)

◎ Sputnik/ Iliya Pitalev <http://bit.ly/10n5tJG>

サウジアラビアの国営石油会社アラムコは「アジア諸国の消費者向け、2月の原油卸値を引き上げる」と発表した。

1バレルあたりサウジ原油は60セント引き上げられた。これでサウジによる、アジア市場向け原油価格の引き上げは、2ヶ月連続となった。アジアは、ペルシャ湾岸諸国にとって鍵を握る重要な市場である。サウジの原油輸出量の約60%、イランの輸出量のおよそ90%が、アジア向けだ。

一方、欧州市場向けには、サウジアラビアは、原油価格を60セント下げた。北海ブレントに対し\$4.85安く自国の原油を販売する考えだ。そうしたことからブレント原油の相場は下がり始め、すでに1バレル37ドル以下で取引されている。

なお米国市場向けの原油価格は、これまでどおりとなる。

<http://bit.ly/1ZN20cL>

ロシアの外国貿易は東に進む

(スプートニク 2016年01月06日 05:38)

© Fotolia/ Lenetsnikolai <http://bit.ly/10Hwn1S>

2015年、悪化するマクロ経済状況と西側諸国からの制裁体制、その報復としての通商停止を背景にロシアは東に活路を見出すという2014年からの姿勢を継続する構えでした。

ロシア経済開発貿易省は昨年ロシアの輸出は31%に減少しその額は3,434億ドルに昇り、一方輸入は36%の減少で1972億ドルに達したと予想しています。地理的な条件のために、相互に制裁を加えている状況にも関わらず、第一の貿易相手国は欧州連合ECであり、4-10月の商品流通量はその前年の約49%に対しておよそ45%を占めています。2番目の対外貿易相手国はAPECアジア太平洋経済協力の参加国でその比重は昨年度に27.9%に達しました。ロシア経済開発貿易省は、長期的な見通しではロシアの海外貿易においてインドを含んだ環太平洋地域の国々が占める割合は40%を超えるだろうと考えています。

2015年にロシアは以前にも増して積極的にユーラシア連合のフォーマットに則って自由貿易空間の創造に取り組んでいました。よく知られているものとしてはベトナムとの自由貿易協定の調印が挙げられます。ある意味でこれはユーラシア連合にとっての最初の一步です。ロシアはベトナムを東南アジアにおける重要なパートナーと考えています。ロシア経済開発貿易省ではこの出来事によって近い将来2カ国の貿易量が飛躍的に高まることを期待しています。

すでに約40カ国もの国々がユーラシア経済連合との自由貿易空間の創造に関心を寄せています。2016年にはユーラシア経済連合との自由貿易協定に関する交渉がエジプトやイスラエルとの間で開始されると考えられています。イランやインドとの共同研究もすでに始まっています。ユーラシア連合との自由貿易空間創造への関心をインドネシア、カンボジア、タイ、韓国が寄せていることはすでに知られています。ロシアはまた日本ともこのことについて検討準備があり、シンガポールとの間では協議が始まっています。

シンガポール、日本、ベトナム、マレーシアは下半期に環太平洋戦略的経済連携協定の参加国となっています。その成立についてアメリカ合衆国大統領のバラク・オバマ氏は、パートナーシップは中国の経済的勢力の拡大に対する応答であり、TPPはこれを押しとどめるものになるだろうとコメントしています。ロシアのプーチン大統領はTPPの成立はATPの利益となるだろうが交渉の秘密主義的な性格がおそらくその地域の安定した発展を助けるだろうと指摘しました。TPPに対するロシアの応答の一つは、中国と一連の諸外国との間で行われている共同の経済空間の創造です。話は特別な条件のもとで東から西へ商品を直接納入できる貿易回廊の創造にまで及んでいます。

2015年に共同計画が開始され最初の投資がなされています。

海外諸国との通貨の清算にかんする話題も2015年のライトモチーフでした。1月にはすでにロシア政府は中国と互いの通貨清算の拡大に必要性について対話を行いました。こうした通貨清算に関する検討はベトナム、エジプト、イラン、タイ、インドネシアなどの国々の間でも行われています。ロシア政府は言葉ではなく行動で東への展開を示しているのです。

12月上旬、プーチン大統領は連邦議会での年次教書演説でユーラシア経済連合の参加国と上海協力機構、東南アジア諸国連合の諸国が共同の経済パートナーシップを形成することを提案しました。2016年6月1日までに内閣は上海協力機構、東南アジア諸国連合との経済パートナーシップに関する協議の実現の報告を準備するよう委ねられています。

世論調査によるとロシアの東方に向けた発展に賛成するロシア人は約59%ということです。そのうち70%のロシア人はロシアがアジア諸国と積極的に協力することが国にとってマイナスよりもプラスの方が大きいと考えています。東への発展はロシアにとって一時的なものではなく、十分に自覚した選択だと、露上院の国際委員会委員長コンスタンチン・コサチェフ氏は指摘します。

「こうした現象は一時的なものではないか、しかたなく強いられた措置ではないか、西欧諸国の制裁に対する反応ではないかとよく私に問う人がいるのですが、違うと私は答えます。これは単に対処的なものでも、景気循環によるものでもなく十分に考えられた選択です。私たちはアジアが地上で最も活発に発展している地域であることをよく理解しているのです。」

<http://bit.ly/1kKhjDg>

「ダーイシュ（IS）」処刑人の姉妹 彼個人を自分で殺すと約束

(スプートニク 2016年01月06日 06:42)

◎ Flickr/ CGP Grey <http://bit.ly/1JWz3Cb>

5人の英国人「スパイ」を処刑したとされるテロ組織「ダーイシュ（IS、イスラム国）の男性の姉妹と見られる女性が「もし彼がそれを認めるなら、私自身が彼を殺すだろう」と発言し、話題となっている。新聞「デイリー・メール」が伝えた。

ロンドン北部に住むコニカ・ドハルさんは、取材で次のように語った。「英国人処刑ビデオに映っていたのが、自分の兄弟であるとは信じていない。まず目が違うし、背はもっと低く、肩幅はもっと広い。でもやはり声は、彼に少し似ている気がする。

彼とはもう1年以上、連絡を取っていない。だから、彼がその間、何をしていたかさえない。

「ショックを受けたかって？ もちろん受けた。もしビデオのあの男が兄弟なら、私の手で殺してやる。彼が家に戻り次第、私自身が殺す。」

先に報じられたように、ダーイシュ（I S）の戦闘員らは、英国のキャメロン首相に対する警告として「スパイ活動」をしていた。英国人5人を処刑するビデオ動画を公表した。

<http://bit.ly/1JsPqeT>

ドイツでロシアのG8復帰を求める声があがる

(スプートニク 2016年01月06日 08:15)

© REUTERS/ Christian Hartmann <http://bit.ly/104sTnk>

ロシアの主要な経済大国の連合であるG8への復帰は必要不可欠であるという意見がドイツの通信社DPAのインタビューにおいてドイツ連邦議会左派のサラ・ワーゲンクネヒト共同議長の口から表明された。

イタルータス通信が彼女の言葉を次のように伝える。「最初からロシアを排除することは間違いであった。私たちは例えばシリア一つとってもロシアがいなければ政治的な決断に至ることができないのだ。」

クリミアでの事件を背景として2014年にロシアは公式にG8から排除された。世界の大国の指導者たちはロシアが議長国としてソチで取り仕切ることになっていたG8サミットへの参加を拒否し、そのかわりにブリュッセルでG7サミットが開かれた。

<http://bit.ly/1Z79ryM>

マスコミ：「ダーイシュ（I S）」は旅客機を撃墜できるミサイル製造の可能性を手にした

(スプートニク 2016年01月06日 17:28)

© AP Photo/ Hatem Moussa <http://bit.ly/1MNDRs7>

テロ組織「ダーイシュ（I S、イスラム国）」は、旅客機や軍用機を撃墜できる兵器や、遠隔操作の自動車爆弾を製造する可能性を手に入れた。テレビ局「スカイニュース」が伝えた。スカイニュースによると、所謂シリアにおける「ダーイシュ」の「首都」とされているラッカで活動する学者や軍事専門家たちのグループが、「地对空」ミサイル用の手製の熱電池の製造に成功した。これにより、熱電池を使用した誘導弾を搭載したミサイルの弾頭部の設計が可能となるという。

スカイニュースが入手した動画では、現在「ダーイシュ」の戦闘員らが、欧米の政府が老朽化を

理由に処分した数千発のミサイルを再び稼働させようとしている様子がみてとれる。熱電池を使用した誘導弾は、旅客機および軍用機を攻撃するために使用される可能性があり、その誘導精度は最大 90%だという。

<http://bit.ly/1IRD5Ra>

メルケル首相の執務室 不審物が見つかり封鎖

(スプートニク 2016 年 01 月 06 日 18:26)

◦ AP Photo/ Hermann J. Knippertz <http://bit.ly/1Pmx9Sm>

ベルリンにある首相府の近くで不審物が発見され、ドイツ連邦警察が調査を行っている。なお、首相府の建物とその入口付近は、現在閉鎖されている。警察報道官が、リア・ノーヴォスチ通信に伝えた。

報道官は、次のように語った—

「午前 8 時 30 頃（モスクワ時間で 10 時 30 分頃）、パトロール中に不審物が発見された。首相府は特別な管理下にあるため、迅速に不審物の調査に着手された。現在、首相府への入口付近は閉鎖され、現場では我々の専門家たちが作業している。」

なお報道官は、発見された不審物が何だったのか、また現場では何人の警官が活動しているのかについては明らかにしなかった。

<http://bit.ly/1UxJrFT>

ロシア議員：北朝鮮の世界からの孤立が、同国をよい方向に導くことはない

(スプートニク 2016 年 01 月 06 日 19:06)

◦ AP Photo/ Lee Jin-man <http://bit.ly/1mHtMsS>

ロシア下院（国会会議）防衛委員会のセルゲイ・ジガレフ第一副委員長は、北朝鮮による水爆実験についてリア・ノーヴォスチ通信にコメントし、北朝鮮の外界からの孤立が、同国をよい方向へ導くことはない指摘し、開かれた世界のみが、紛争解決に寄与することができるとの考えを表した。

ジガレフ氏は、次のように語った—

「国が、今よりもさらに強い孤立（とはいえ、すでに強いことこの上ないのだが）に陥ったとしても、（それが北朝鮮を）よい方向に導くことはないだろう。助けとなるのは常に開かれた

世界のみであり、孤立や制裁は、私たちが目にしているように、通常よい方向へ導くことはなく、状況を悪化させるだけである。国際的、政治的、文化的交流の拒否が、互いをよりよく理解する可能性を与えることはない。」

またジガレフ氏は、北朝鮮は最近、日本領土に達することができるであろうミサイルを使用する能力があることを証明したと指摘した。一方でジガレフ氏は、このミサイルについて、技術的に完全とはいえず、ロシア、日本、韓国の防空手段は、「簡単にそのミサイルに対処できるだろう」と強調した。

<http://bit.ly/1kNtsr9>

ロシア外務省 北朝鮮が発表した水爆実験についてコメント

(スプートニク 2016年01月06日 20:19)

© AFP 2015/ JUNG YEON-JE <http://bit.ly/1S54mCs>

ロシアは、北朝鮮による水爆実験の事実が確認された場合、これが核兵器開発の道における北朝鮮の新たな一歩となり、これが国際法とこれまでの国連安全保障理事会決議への重大な違反であることを確信している。

ロシア外務省のザハロワ報道官は、次のようなコメントを表した—

「このような行為は、朝鮮半島情勢を悪化させる危険性をはらんでいる。朝鮮半島はそれだけでなく、極めて高い軍事・政治的対立のポテンシャルを特徴としている。」

報道官は、北朝鮮当局が1月6日に水爆実験を成功させたと発表したことについて、ロシアは注意深くこの声明を調査し、技術管理情報を分析していると述べた。ザハロワ報道官は、次のように強調した—

「この状況において、全当事者に最大限の自制を保ち、北東アジアの緊張を制御不能なまで高める可能性のある行動を取らないよう呼びかける。」

ロシアは、6カ国協議プロセスと、地域の平和および安全に関する信頼性の高いシステムの形成に向けた対話を早急に開始することで、朝鮮半島問題を外交的に解決する立場を確認した。なお北朝鮮が水爆実験の実施を発表したことを受け、国連安保理は、米国と日本の要請に従い、緊急会合を開くことを決定した。

<http://bit.ly/1POMpqy>

独ケルン大晦日襲撃 女性らが抗議行動

(スプートニク 2016年01月06日 21:42)

© REUTERS/ Wolfgang Rattay <http://bit.ly/1Z6Tza6>

ドイツ西部ケルンで、移民と思われる集団による襲撃事件を受けて女性たちが抗議を行った。先に約90人の女性が性的嫌がらせなどを受けたとして警察に被害届を出していた。12月31日の大晦日から1月1日にかけての年越しの際に、ケルン駅の駅前広場やその近くの通りに、年齢が15歳から35歳くらいまでの主にアラブ系とみられるおよそ1,000人の男達が集まり、グループに分かれて女性を囲み、財布などを奪ったり、侮辱したり、嫌がらせなどをした。服を剥ぎ取られた女性たちもいた。また少なくとも、1人の女性が性的暴行を受けたという。現在、数人が拘留されているが、ドイツ司法省は、全ての難民を非難することを控えるよう呼びかけた。現在、調査が行われている。なおメルケル首相は、ケルンでの大規模な性的犯罪に断固として対応するよう求めた。

<http://bit.ly/1RjBJld>

ブレント原油 2004年7月以来の35ドル割れ

(スプートニク 2016年01月06日 23:01)

© Fotolia/ Sandor Jackal <http://bit.ly/1061cuk>

6日、中国経済減速の兆候や、同日に米国のエネルギー備蓄に関するデータが発表されるのを背景に、ブレント原油とWT I原油が大幅下落し、1バレル35ドルを割り込んだ。通信社ブルームバーグが報じた。ロンドンのICEフューチャーズ・ヨーロッパでは、モスクワ時間で6日13時40分の時点で、ブレント原油先物2月限の価格が1バレル=34.91ドルとなり、2004年7月以来の安値となった。ニューヨーク商品取引所では、同じくモスクワ時間で6日13時40分の時点で、2月受け渡しのWT I原油の相場が、1.06ドル安(2.95%安)の1バレル=34.91ドルとなった。

<http://bit.ly/1JYt3sG>

プーチン大統領 北朝鮮が発表した水爆実験に関するデータの調査を指示

(スプートニク 2016年01月07日 00:17)

© Sputnik/ Grigoriy Sisoiev <http://bit.ly/1TKALvr>

ロシア大統領府は、北朝鮮が水爆実験を実施したと発表したことを受け、大きな懸念を表している。ロシアのペスコフ大統領報道官が発表した。ペスコフ報道官は、次のような声明を表した—

「ウラジーミル・プーチン大統領は、地震観測所を含む全観測所の示度を綿密に調査し、実験

に関する情報が確認された場合には、状況を分析するよう指示した。」

<http://bit.ly/1Zaqqjz>

2隻目の空母を建造する中国

(スプートニク 2016年01月07日 02:10 リュドミラ・サーキャン)

◦ AP Photo/ Li Tang <http://bit.ly/1MLXTEs>

中国当局は2015年最後の日、中国海軍にとって2隻目の空母を建造していることを明らかにした。新たな空母の建造に関する声明は、中国国防省のサイトに掲載されている。先に中国と世界のマスコミは、中国海軍にとって2隻目の空母の建造に関する情報を繰り返し報じていたが、中国側は空母の建造を公式には認めていなかった。すでに知られているように、中国初の空母「遼寧」は、「アドミラル・クズネツォフ」級のソ連の空母「ヴァリヤグ」を改良したものだ。ソ連邦崩壊後、「ヴァリヤグ」は、未完成の状態でウクライナに引き渡され、中国政府は娯楽・観光施設に改造する目的だと発表し、ウクライナから「ヴァリヤグ」を買い取った。しかし、中国に到着した「ヴァリヤグ」は、大連の造船所で大規模な近代化改装を受けた。そして2014年、「ヴァリヤグ」は「遼寧」と改名されて、中国海軍に引き渡された。中国のマスコミは、空母は訓練のために使用されるだけで、戦闘には参加しないと報じた。

中国の軍事力強化に向けたあらゆる行動が、隣国を緊張させているのは明らかだ。なおロシア科学アカデミー極東研究所のエレーナ・バジェノワ主任研究員は、中国海軍に新たな空母が装備されることについて、中国には、攻撃的な外交政策を実施するためではなく、自国の安全保障のために新たな空母が必要だ、との見方を示し、次のように指摘している—

「世界情勢は複雑であり、様々な国で過激派の台頭が進み、海上では海賊行為の問題があり、そこにはアジア地域も含まれている。人口が10億人を超える国にとって空母1隻では少ない。」

中国当局は、まだ新空母の詳細を一切明らかにしていない。新たな空母の排水量も搭載予定機の数も種類も分からない。なお複数の情報によると、空母は2016年にも進水する可能性がある。

<http://bit.ly/1kNvAz4>

北極圏研究、ロシアはきわめて重要なパートナー

(スプートニク 2016年01月07日 03:15 徳山あすか)

◦ Sputnik/ Ramil Sitdikov <http://bit.ly/22LQFw0>

日本は北極に面してはいないものの、近年北極に対するコミットメントを強化させてきた。北極

圏の環境調査などの推進を掲げる自民党の「北極のフロンティアについて考える議員連盟」（会長・鈴木俊一元環境相）は 2013 年 10 月に発足している。スプートニクは、同議員連盟の幹事長である上川陽子衆議院議員にお話を伺った。上川議員は、日本の北極に関する取り組みは、ステップを踏んで前進してきていると述べている。

上川議員：「地球温暖化の影響は北極に顕著に現れており、北極の環境変化は地球全体の環境と生態系に非常に大きな影響を引き起こすだろうと懸念しています。ですから国として北極に面している・面していないに関わらず、北極を取り巻く問題に取り組まねばならない、という問題意識を持っています。

北極問題に取り組むには、北極域の脆弱な環境・あるいは北極圏で生活している先住民の方々への配慮も十分に考えていかなければなりません。『北極のフロンティアについて考える議員連盟』はこれらの課題について、議員が研究し、政治主導を実現していくために 2 年前に発足しました。

昨年、議員連盟を設立して 1 年目に、北極に関する国家戦略を策定することを要望する決議文を採択しました。その結果として今年 10 月に我が国で初となる『我が国の北極政策』が発表されました。その具体化に向けて北極政策の戦略的な推進と体制強化、予算の拡充を政府に要望したところ です。」

スプートニク：日本政府による『我が国の北極政策』の中で、日本はロシアを協力の相手国として名指ししています。具体的にどのように協力していくつもりですか。

上川議員：「科学技術面での貢献は日本にとって大変重要です。北極海の海氷が減少するという事は、航路や資源開発など新たなフロンティアが出てくることでもあります。開発が環境にもたらす影響について、正確な科学的知見を持つことが必要です。日本としては科学技術を最大限活用し、ステークホルダーに対して正確な情報を提供することを目指したいと思っています。北極圏の中でも最大の領土を有しているロシアは、研究・観測を行うにあたってきわめて重要なパートナーです。2000 年に日露間で締結された科学技術協力協定に基づいて委員会・意見交換が開催されていますし、日露の研究機関・大学においても研究交流を活発に行っています。これについては更に力を入れていきます。」

<http://bit.ly/1UxMZZ0>

ロシア地上軍部隊 5 年間で 5 千以上の新型兵器を受け取る見込み

(スプートニク 2016 年 01 月 07 日 10:16)

© Sputnik/ Alexandr Kryazhev <http://bit.ly/1RjEqDm>

ロシア連邦軍地上部隊の戦闘員達は、今後 5 年の間に、5 千以上の新型、そして約 6 千の改良型の装甲兵器及び軍事車両を受け取る事になる。火曜日 5 日、地上軍の総司令官オレグ・サリュコフ

大將は、このように伝えた。

昨年 2015 年、地上軍の兵団や部隊は、2500 を超す兵器や軍事車両の基本モデルを受け取る計画だった。

サリュコフ大將は、次のように伝えた-

「2020 年までには全体で、5 千を超す新型の、そして約 6 千の改良型の装甲兵器や軍事車両を買い付ける計画だ。またおよそ 1 万 4 千の近代的な自動車も買われるだろう。今年 2016 年、地上軍部隊には特に、中距離地对空ミサイルシステム『ブーク M 3』の最初の一組の供給が計画されている。」

<http://bit.ly/1UxNour>